北埋調報　29

砂川市　焼山2遺跡

奈井江町　宮村2遺跡・茶志内4遺跡

――北海道縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書――

昭和60年度

財団法人　北海道埋蔵文化財センター

例　　言

1　本書は北海道縦貫自動車道建設工事のうち滝川工事事務所管内における埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　調査した遺跡は砂川市焼山2遺跡及び奈井江町宮村2遺跡・茶志内4遺跡である。

3　調査は北海道教育委員会の指示により，日本道路公団札幌建設局の委託を受けて財団法人北海道埋蔵文化財センターが実施した。

4　調査にあたっては，砂川市教育委員会・奈井江町教育委員会の協力を得た。

5　本書の作成は，調査を担当した北海道埋蔵文化財センター調査第三班が行った。文責者はそれぞれ文末に記した。

目　　次

Ⅰ　調査の概要 …… 1
　1　調査要項 …… 1
　2　調査体制 …… 1
　3　調査に至る経緯 …… 2
　4　調査結果の要旨 …… 2
Ⅱ　焼山2遺跡 …… 3
　1　遺跡の立地と調査の内容 …… 3
　2　遺構 …… 6
　3　遺物 …… 8
Ⅲ　宮村2遺跡 …… 11
　1　遺跡の立地と調査の内容 …… 11
　2　遺物 …… 14
Ⅳ　茶志内4遺跡 …… 17
　1　遺跡の立地と調査の内容 …… 17
　2　遺物 …… 19
　3　周辺遺跡の出土遺物 …… 22

挿　図

焼山２遺跡

図１　遺跡周辺の地形 …… 3
図２　周辺の遺跡 …… 4
図３　Ⅲ層上面の地形 …… 5
図４　Ｔピット …… 7
図５　Ｔピット …… 8
図６　土器 …… 8
図７　石器 …… 9

宮村２遺跡

図８　遺跡周辺の地形 …… 11
図９　周辺の遺跡 …… 12
図10　土層断面 …… 13
図11　Ⅳ層上面の地形 …… 13
図12　土器 …… 14
図13　石器 …… 15

茶志内４遺跡

図14　遺跡周辺の地形 …… 17
図15　土層断面 …… 18
図16　Ⅳ層上面の地形 …… 18
図17　土器 …… 19
図18　石器 …… 20
図19　周辺遺跡の遺物 …… 22

写真図版

焼山２遺跡

図版１－１　焼山２遺跡遠景(南から)　25
　　２　焼山２遺跡遠景(北から)　25
図版２－１　完掘の状況 …… 26
　　２　完掘の状況(調査区東側)　26
図版３－１　ＴＰ－１確認状況 …… 27
　　２　ＴＰ－１完掘状況 …… 27
図版３－３　ＴＰ－２完掘状況 …… 27
　　４　ＴＰ－３発掘状況 …… 27
図版４－１　ＴＰ－３完掘状況 …… 28
　　２　ＴＰ－４完掘状況 …… 28
　　３　ＴＰ－５杭跡断面(西側)　28
　　４　ＴＰ－５杭跡断面(東側)　28
図版５－１　ＴＰ－５土器出土状態　29
　　２　ＴＰ－５完掘状況 …… 29
　　３　土器 …… 29
図版６－１　石器 …… 30
　　２　石器 …… 30

宮村２遺跡

図版７－１　宮村２遺跡遠景(北から)　31
　　２　完掘の状況 …… 31
図版８－１　発掘風景 …… 32
　　２　土壙の発掘 …… 32
　　３　土壙の土層断面 …… 32
　　４　土器 …… 32
図版９－１　土器 …… 33
　　２　土器 …… 33
　　３　石器 …… 33

茶志内４遺跡

図版10－１　茶志内４遺跡遠景（西から）
　　…… 34
　　２　発掘作業 …… 34
図版11－１　完掘の状況 …… 35
　　２　土器 …… 35
図版12－１　石器 …… 36
　　２　周辺遺跡の遺物 …… 36
　　３　石器 …… 36

Ⅰ　調査の概要

1　調査要項

事　業　名　　北海道縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査

事業委託者　　日本道路公団札幌建設局

事業受託者　　財団法人　北海道埋蔵文化財センター

遺　跡　名　　焼山（やけやま）2遺跡　　（北海道教育委員会登載番号　E－08－16）
　　宮村（みやむら）2遺跡　　（北海道教育委員会登載番号　E－14－7）
　　茶志内（ちゃしない）4遺跡　　（北海道教育委員会登載番号　E－14－13）

調 査 期 間　　昭和60年4月1日～昭和61年3月31日

	所　在　地	面　積	発　掘　期　間	整理期間
焼山2遺跡	砂川市焼山209番地	3,100m²	昭和60年5月20日～5月31日	昭和60年11月4日～昭和61年3月31日
宮村2遺跡	奈井江町字奈井江1123番地	3,200m²	昭和60年7月22日～8月7日	
茶志内4遺跡	奈井江町字茶志内美唄1697番地	1,600m²	昭和60年8月8日～8月30日	

2　調査体制

財団法人　北海道埋蔵文化財センター	理 事 長	植村　敏	
	専務理事	山本　慎一	
	常務理事	藤本　英夫	
	業務部長	間宮　道男	
	調査部長	中村　福彦	
焼山2遺跡	調査第三班長	鬼柳　彰	（発掘担当者）
	文化財保護主事	佐藤　和雄	
	嘱　託	谷島　由貴	
宮村2・茶志内4遺跡	文化財保護主事	西田　茂	（発掘担当者）
	嘱　託	和泉田　毅	
	嘱　託	石川　朗	

3　調査に至る経緯

日本道路公団は現在，北海道縦貫自動車道のうち岩見沢～旭川間の建設工事を進めている。建設予定路線のうち砂川市及び奈井江町における埋蔵文化財包蔵地所在確認調査は昭和53年度，北海道教育委員会によって行われた。この調査の結果，予定路線には周知の埋蔵文化財包蔵地のうち，砂川市東豊沼Ｄ遺跡，奈井江町茶志内４・５・８・９・宮村２遺跡の計６ヵ所の包蔵地がかかることが判明した。また砂川市では新たに北吉野・焼山２・３・空知太２・３・駄馬の沢２の各遺跡が発見された。

北海道埋蔵文化財センターは北海道教育委員会の指示により，昭和59年５月これら計12ヵ所の遺跡について分布の範囲，遺跡の性格等のデータを得るために事前発掘調査を実施した。

以上の経緯のもとに，当センターは今年度，焼山２・宮村２・茶志内４の各遺跡の発掘調査を行った。また北海道教育委員会は空知太２の一部と駄馬の沢２・東豊沼Ｄ・北吉野・茶志内４の一部・茶志内５・８・９の８ヵ所の遺跡について工事立会調査を実施した。（鬼柳　彰）

4　調査結果の要旨

焼山２遺跡：砂川市北東部のペンケウタシナイ川左岸段丘上に立地。段丘縁辺近くに長軸が約1.2～1.5ｍのＴピットが５基発掘された。このうち４基は列をなしている。他の１基の壙底からは杭跡が検出された。出土遺物は273点。土器片は縄文時代中期末葉のものが61点。石器は石鏃・石槍類・スクレーパーなどの剥片石器がそれぞれ数点，ほかに石斧・たたき石が１点ずつある。このほかはすべて剥片である。

宮村２遺跡：奈井江町西部の奈井江川右岸段丘上に立地。遺構は検出されなかった。出土遺物は1,228点。土器片は北筒式ないし余市式のものが25点，石器は石鏃・石槍類・つまみ付ナイフ・石斧・たたき石・すり石・石皿などが，それぞれ数点ずつある。このほかはすべて剥片である。

茶志内４遺跡：宮村２遺跡の南約２㎞の丘陵端部に立地。遺構は検出されなかった。出土遺物は1,577点。余市式土器の同一個体の破片が４点。石器は石鏃・石槍類・スクレイパー・石斧がそれぞれ数点ずつ，ほかにたたき石が１点ある。このほかはすべて剥片である。

今回調査した３ヵ所の遺跡は，いずれも空知山地の西斜面裾部にあって，明治以来畑として利用されてきた土地である。各遺跡とも遺物は少なく，点々と散布しているにすぎない。また遺構は焼山２遺跡で５基のＴピットが発掘されたのみであった。（鬼柳　彰）

Ⅱ　焼山２遺跡

１　遺跡の立地と調査の内容

砂川市は石狩川中流域にあって，市街地の東部には夕張山地の西端にあたる丘陵地帯，西部には石狩川左岸の肥沃な平野が広っている。東側に隣接する歌志内市・上砂川町の炭鉱を背景とする石炭産業及び化学工業を基幹として発達した空知管内の中核都市の１つである。町の中央を国鉄函館本線，国道12号線が縦断しており，歌志内・上砂川方面への分岐点にもなっている。

今回発掘調査を行った焼山２遺跡は砂川市北東部のペンケウタシナイ川左岸段丘上にある。ペンケウタシナイ川は歌志内市東部に源を発し，山間部を深く刻んで西流，焼山付近から平野部に入り石狩川に注いでいる。焼山という地名は明治24年この付近一帯で山火事があったことに由来している。焼山地区では明治27年頃から開墾が始まり，同35年にかんがい溝がつくられてから水田がつくられるようになった。

この付近ではペンケウタシナイ川の河岸段丘が３段みられ，本遺跡は川との比高が約４ｍの中位段丘上に立地している。段丘面は平坦で，畑地・水田などに利用されている。調査区内の南東部は開墾以来宅地として利用され，住宅のほか馬小屋・井戸などがあったという。

発掘調査区は平坦面の幅が約100ｍの中位段丘上のうち縁辺に近い部分である。南東側の住

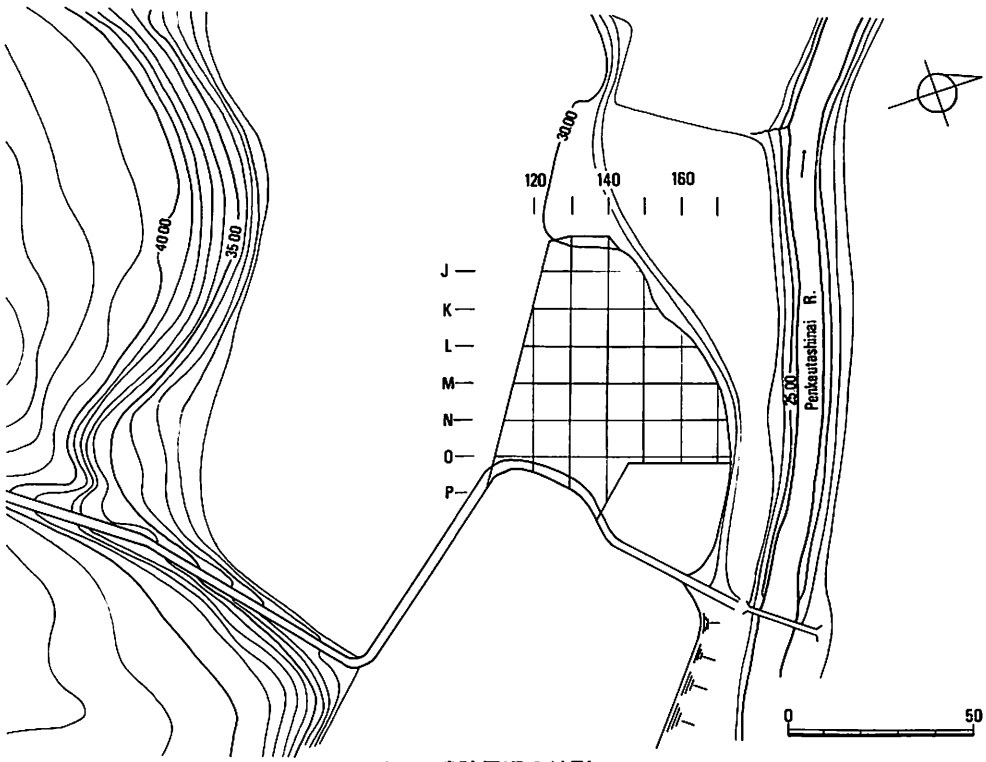
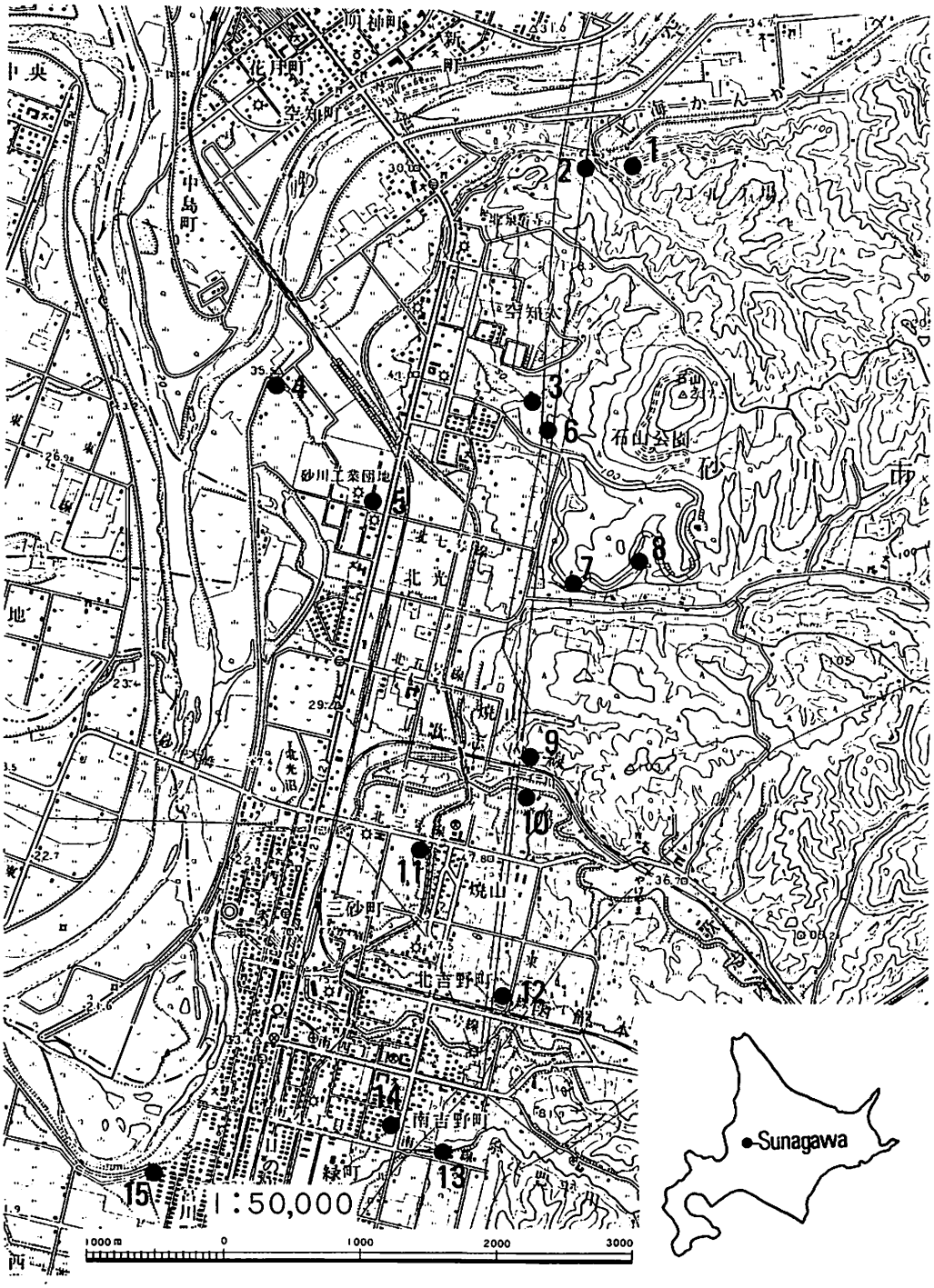


図１　遺跡周辺の地形



1．駄馬沢２遺跡　2．駄馬沢遺跡　3．空知太３遺跡　4．空知太遺跡
5．北光A遺跡　6．空知太２遺跡　7．北光B遺跡　8．北光C遺跡
9．焼山３遺跡　10．焼山２遺跡　11．焼山遺跡　12．北吉野遺跡
13．南吉野遺跡　14．吉野遺跡　15．西豊沼A遺跡

図２　周辺の遺跡

宅があった部分のほかは畑になっている。また調査区内の南西部は畑地造成のために客土が行われていた。遺物包含層はⅠ層の砂質褐色土である。この層は耕作によって攪乱されている。

南東部の住宅が建てられていた付近は土層が至る所で攪乱されており，地山まで削平されている部分もあった。地山は黄褐色ローム層で砂・礫が混入しており，石炭の礫もみられた。

発掘されたTピット5基は，いずれも調査区中央部から段丘縁辺にかけて分布している。遺物はわずか300点たらずであるが，大部分がTピットの分布範囲と同様に調査区北半部から出土した。南東側は削平されている部分があったが，Tピット・竪穴住居跡などの遺構が存在していた痕跡はみられない。また南西部では盛土の下にⅠ層が残っていたが遺構はなく，遺物もごくわずかしか出土しなかった。

出土遺物273点のうち土器片61点と石器27点のほかは剝片である。これらの遺物はおもにⅠ層から出土したが，土器片の約3分の1はTピット内の黒色腐植土中にあった。

遺物の出土状態をみると，本遺跡付近には本来Tピット内にみられるような黒色腐植土が堆積していたが，ペンケウタシナイ川の氾濫や耕作によって流失し，Tピットやくぼみ中にのみ残されたものと考えられる。本遺跡と同様の地形は，この付近の各所にある。発掘されたTピットをつくった人々の集落が周辺のどこかに今も埋もれているものと考えられる。（鬼柳　彰）

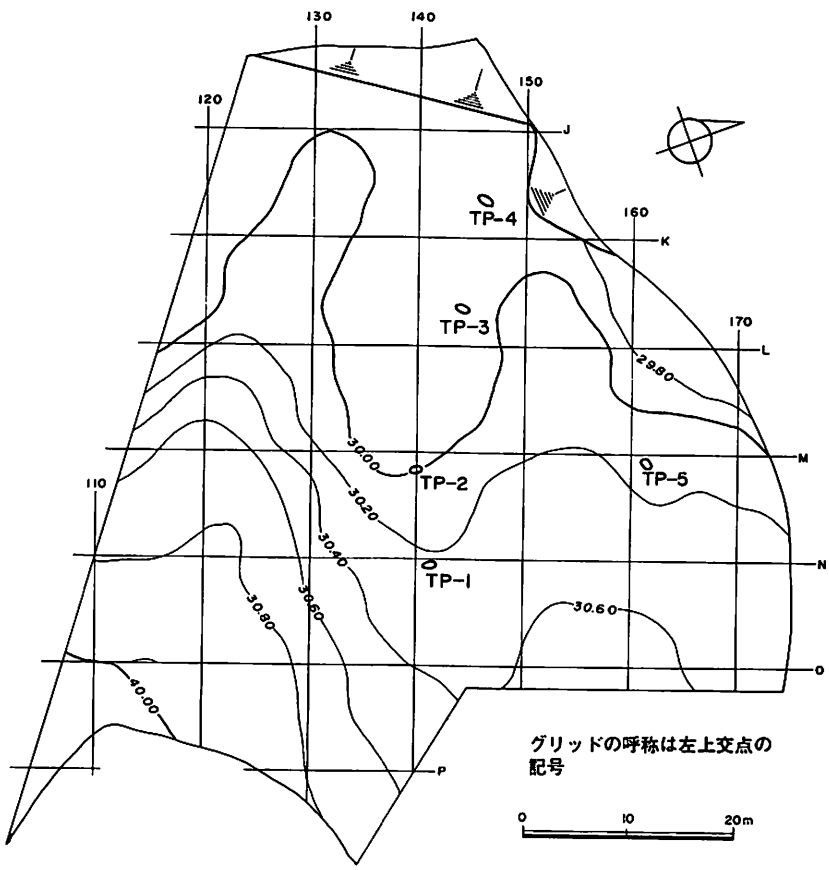


図3　Ⅲ層上面の地形

2 遺　構

発掘された5基のＴピットのうち，ＴＰ－１～ＴＰ－４は調査区中央部から段丘縁辺にかけて列をなしている。これに対してＴＰ－５は調査区中央北よりの段丘縁辺からわずか５ｍほどの位置に単独で検出された。また５基のうちＴＰ－５にのみ壙底に杭跡があった。

ＴＰ－３・５の埋土上部の黒色腐植土中からは縄文時代中期末葉のものと考えられる土器片が出土した。これらのＴピットはいずれも地山上面で確認されたが，土層断面（図４）から判断しても本来の掘りこみ面は，さらに上位にあったものと考えられる。

Ｔピットは石狩低地帯から道南にかかて1500基あまり発掘調査されているが，これに対して道東，道北では発見例が非常に少ないことが知られている。本遺跡の５基のほかに，石狩川流域で発掘されたＴピットには，旭川市忠和２遺跡の５基と今年度北海道教育委員会が工事立会調査を行った砂川市空知太の駄馬の沢２遺跡で発見された１基（図５）がある。いずれも本遺跡と同様に石狩川支流の左岸段丘上の遺跡である。本遺跡の５基を含めて，これらの石狩川中流，上流で発見された11基のＴピットは，いずれも開口部長軸の長さが約1.2ｍ～1.5ｍである。これに対して石狩低地帯以南で多数発見されているＴピットは約1.5ｍから2.5ｍのものが多く，なかには４ｍを超える例も報告されている。このような規模の差異が，どのような要因に基づくのかを，Ｔピットの機能の問題とともに解明する必要があろう。（佐藤和雄）

表１　Ｔピット計測値

		ＴＰ－１	ＴＰ－２	ＴＰ－３	ＴＰ－４	ＴＰ－５
位置		Ｎ－140	Ｍ－130・Ｍ－140	Ｋ－140	Ｊ－150	Ｍ－160
規模	壙口 長さ×最大幅	1.24ｍ×0.51ｍ	－×0.48ｍ	1.35×0.53ｍ	1.47ｍ×0.79ｍ	1.19ｍ×0.72ｍ
	壙底 長さ×最大幅	1.32ｍ×0.18ｍ	1.13ｍ×0.14ｍ	1.08ｍ×0.18ｍ	1.21ｍ×0.17ｍ	1.21ｍ×0.30ｍ
	最大深	0.90ｍ	0.76ｍ	0.99ｍ	1.14ｍ	0.81ｍ
長軸方向		Ｎ－54°－Ｅ	Ｎ－53°－Ｅ	Ｎ－75°－Ｅ	Ｎ－80°－Ｅ	Ｎ－72°－Ｗ
特徴		○長軸南側がオーバーハングしている。	○長軸南側がオーバーハングしている。 ○北半部が風倒木によってこわされている。	○長軸南側がオーバーハングしている。	○長軸南側がオーバーハングしている。	○壙底の幅が他の４基に比べて広い。 ○壙底に杭跡が２ケ所検出された。

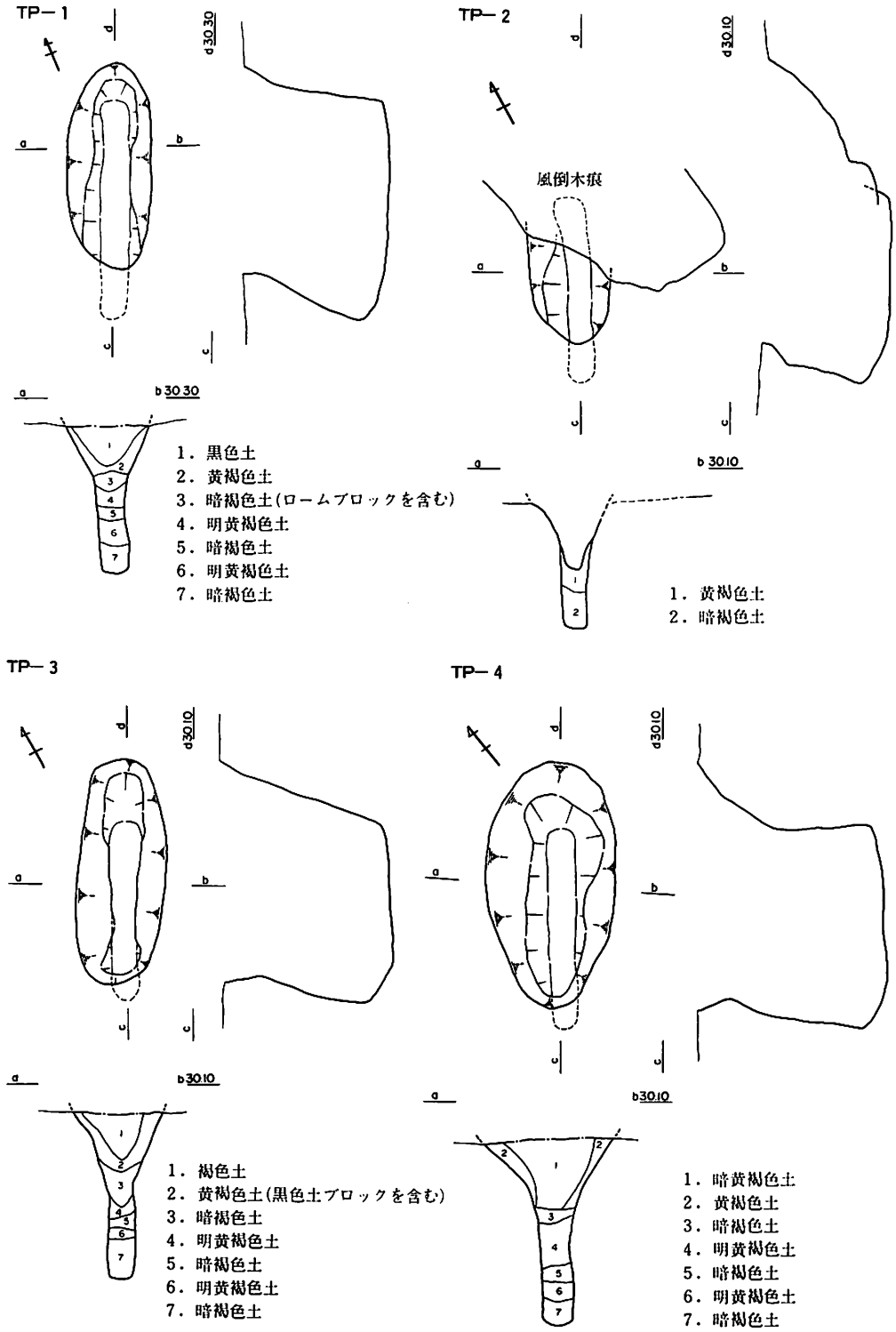

TP－1
d30.30
b30.30
1．黒色土
2．黄褐色土
3．暗褐色土(ロームブロックを含む)
4．明黄褐色土
5．暗褐色土
6．明黄褐色土
7．暗褐色土
TP－2
d30.10
風倒木痕
b 30.10
1．黄褐色土
2．暗褐色土
TP－3
d30.10
b30.10
1．褐色土
2．黄褐色土(黒色土ブロックを含む)
3．暗褐色土
4．明黄褐色土
5．暗褐色土
6．明黄褐色土
7．暗褐色土
TP－4
d30.10
b30.10
1．暗黄褐色土
2．黄褐色土
3．暗褐色土
4．明黄褐色土
5．暗褐色土
6．明黄褐色土
7．暗褐色土

図4　Tピット

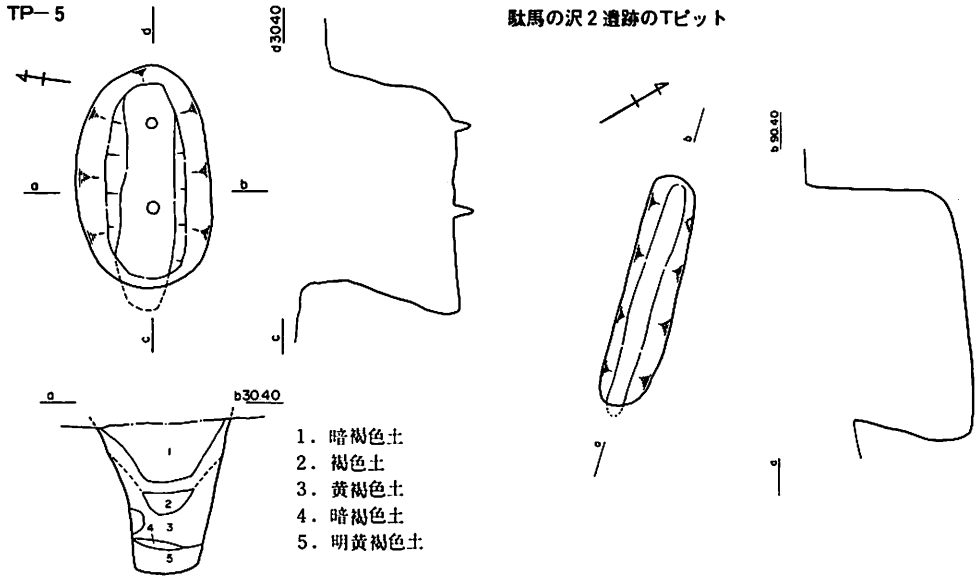


図5　Tピット

3　遺　　物

土器

合計61点出土した。このうち22点がＴピットの埋土から検出されたものである。細かく砕けたものが大半をしめているが，胎土，焼成等は共通している。器厚・文様などからみて縄文時代中期末頃に相当するものと考えられる。

１・２・３（Ｋ－140出土）・４（Ｌ－140出土）・５（Ｍ－150出土）は同一個体と思われる。色調は赤橙色で胎土のきめは細かい。摩耗が著しいが，ＲＬ縄文がわずかにみとめられる。

６はＴＰ－５埋土１層から出土した土器である。暗褐色で，胎土には多量の透明ないし白色の砂粒が含まれている。ＲＬの縄文地の上に刺突文をもつ耳朶状の貼付がある。同一個体片はＴＰ－３埋土１層からも出土している。

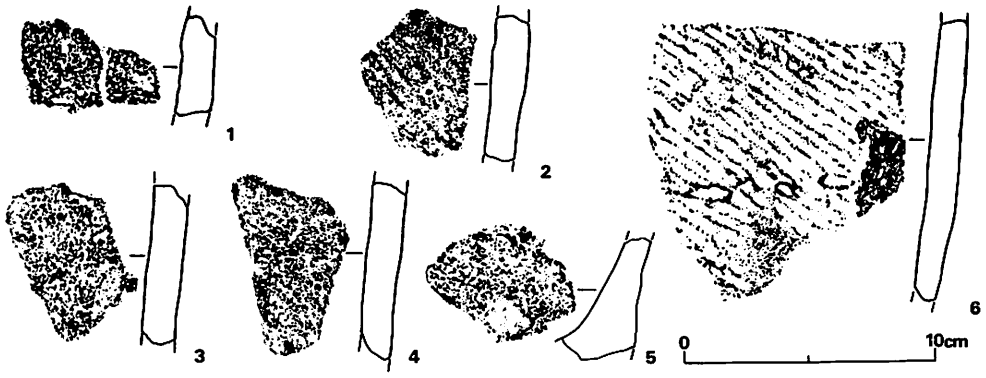


図6　土器

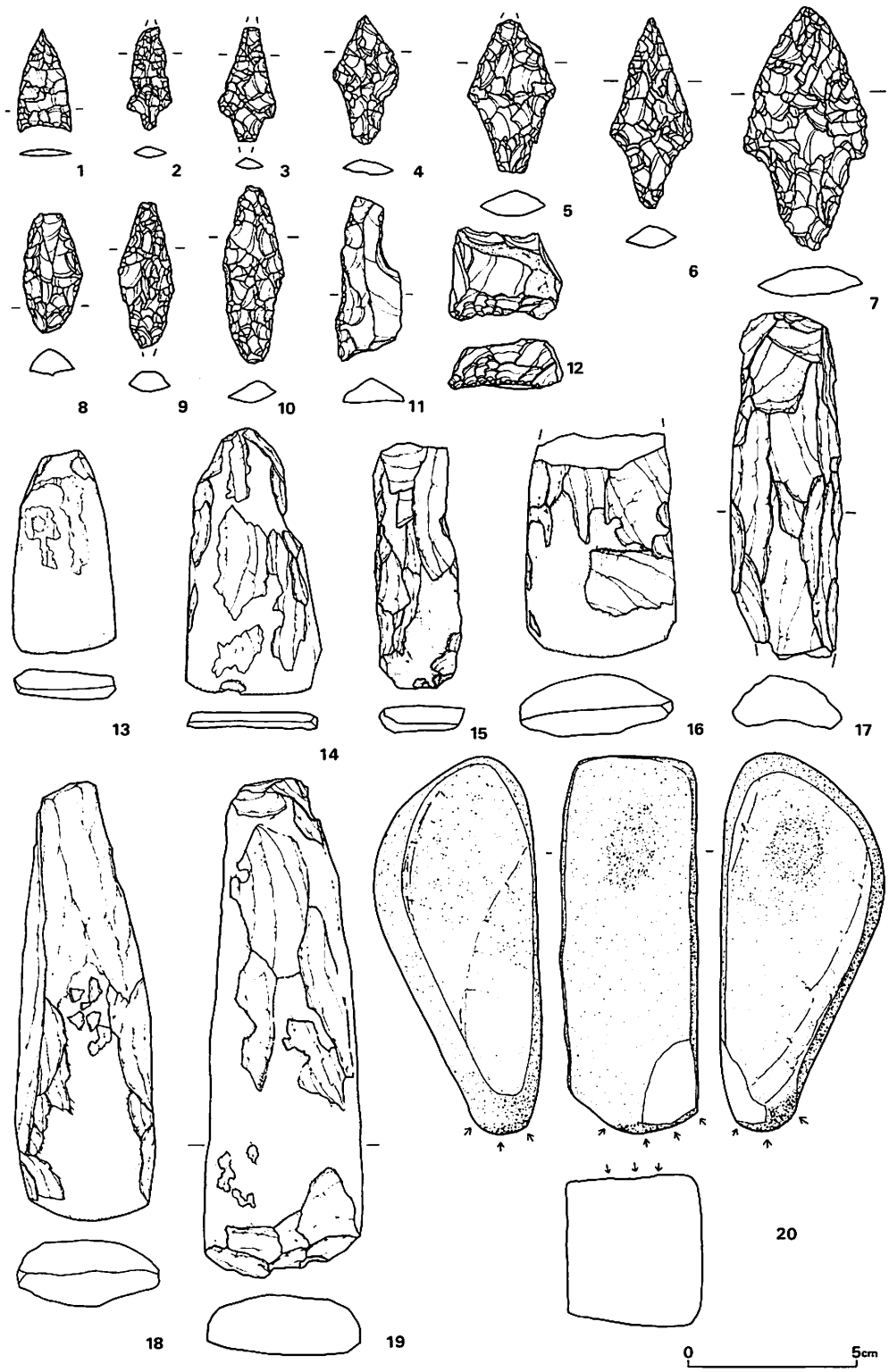


図7　石器

石器

石鏃［1～3］：3点出土。1は基部が内湾する三角形鏃である。先端を入念に調整している。

石槍類［4～10］：7点出土。茎部が明瞭なもの（4～7）とほとんどみとめられないもの（8～10）がある。

スクレーパー類［11・12］：2点出土。11は縦長剝片を素材とし，側縁部に二次調整を加えたもの。12は肉厚の剝片を素材としている。

石斧［13～19］：7点出土，薄身で直線的な刃部をもつもの（13～15）と太身で曲線的な刃部をもつもの（16・18）がある。

たたき石［20］：素材は扁平な楕円礫の両側を分割除去したものである。敲打痕は平坦面，分割面，端部のそれぞれにある。（石川　朗）

表2　掲載石器一覧

番号	名　称	発掘区	大きさ(cm)	重さ(g)	石　質	番号	名　称	発掘区	大きさ(cm)	重さ(g)	石　質
1	石　鏃	M-130	3.1×1.6×0.2	1.1	黒曜石	11	スクレイパー	M-160	5.0×1.8×0.7	6.5	黒曜石
2	〃	M-150	(3.0)×1.4×0.3	(1.2)	〃	12	〃	〃	4.1 ×2.2×0.9	7.8	〃
3	〃	J-130	(3.4)×1.8×0.3	(1.7)	〃	13	磨製石斧	L-150	6.1 ×3.1×1.0	28	片　岩
4	〃	M-160	3.9 ×2.0×0.4	3.3	〃	14	〃	M-120	8.0 ×4.1×0.6	32	片　岩
5	石槍またはナイフ	〃	(4.6)×2.7×0.8	(6.8)	〃	15	〃	M-170	7.4× 2.6×0.7	26	〃
6	〃	L-160	5.7 ×2.5×0.7	8.0	〃	16	〃	L-150	(6.8)×4.5×2.0	(82)	粘板岩
7	〃	M-140	7.3 ×3.7×1.0	22.0	〃	17	打製石斧	J-130	(10.3)×3.3×1.7	(84)	片　岩
8	〃	D-170	3.6 ×1.8×0.8	(4.8)	〃	18	磨製石斧	M-140	13.0 ×4.2×2.5	184	〃
9	〃	K-140	(4.4)×1.7×0.6	(4.3)	〃	19	〃	N-150	15.0 ×4.7×2.0	252	〃
10	〃	K-140	5.3 ×1.8×0.7	7.0	〃	20	たたき石	K-150	11.2× 4.0×4.8	356	砂　岩

参考文献　「空知むかし話」『空知の民話シリーズ第3集』空知地方史研究協議会　昭和60年

森田知忠・遠藤香澄「Tピット論」『北海道の研究　考古篇Ⅰ』　清文堂　昭和59年

『忠和2遺跡』　旭川市教育委員会　昭和59年

Ⅲ　宮村２遺跡

１　遺跡の立地と調査の内容

奈井江町は石狩平野の北部に位置し，東は上砂川町・西は石狩川を挟んで浦臼町，南は美唄市，北は砂川市及び上砂川町の一部とそれぞれ境を接している。町の東部には古第三紀層からなる空知山地が南北に連続し，これから奈江豊平川，奈井江川，茶志内川などの小河川が西流して石狩川に流入している。

西部では石狩川がこれらの中小河川を集めて南流し，肥沃な沖積平野を形成している。

宮村２遺跡は空知山地の美唄山（987ｍ）西側に水源をもつ奈井江川の右岸段丘上にある。現河道との比高は約12ｍである。調査以前段丘面は畑地として利用されていた。

調査区の土層区分は図９にように行った。Ⅰ層は褐色の耕作表土である。Ⅱ層の暗褐色土は約20cmの厚さで堆積しており，下位で遺物がわずかに出土した。Ⅲ層の黒褐色土は40ライン付近の緩傾斜部では約20cmの厚さがあったが，平坦部では風倒木痕などのくぼみにみられるにすぎない。遺物の大半はこのⅢ層から出土したものである。この層はかつては遺跡全体に堆積していたと思われるが，土砂の流出，耕作等によってかなり失なわれたものと考えられる。風倒木痕内からは，これらの影響を免れた大型土器片や石器類が集中して検出された。Ⅳ層の黄褐色土は，石炭粒を含む粘土質層である。部分的に砂礫層まで約70～130cm掘り下げたが遺物は

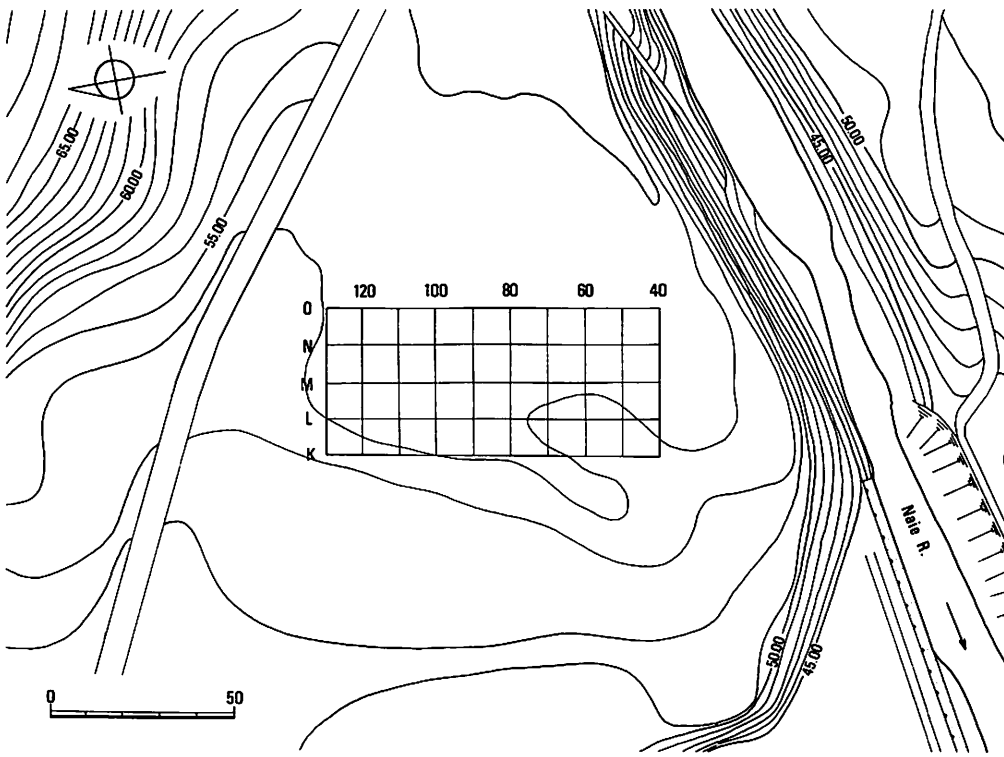
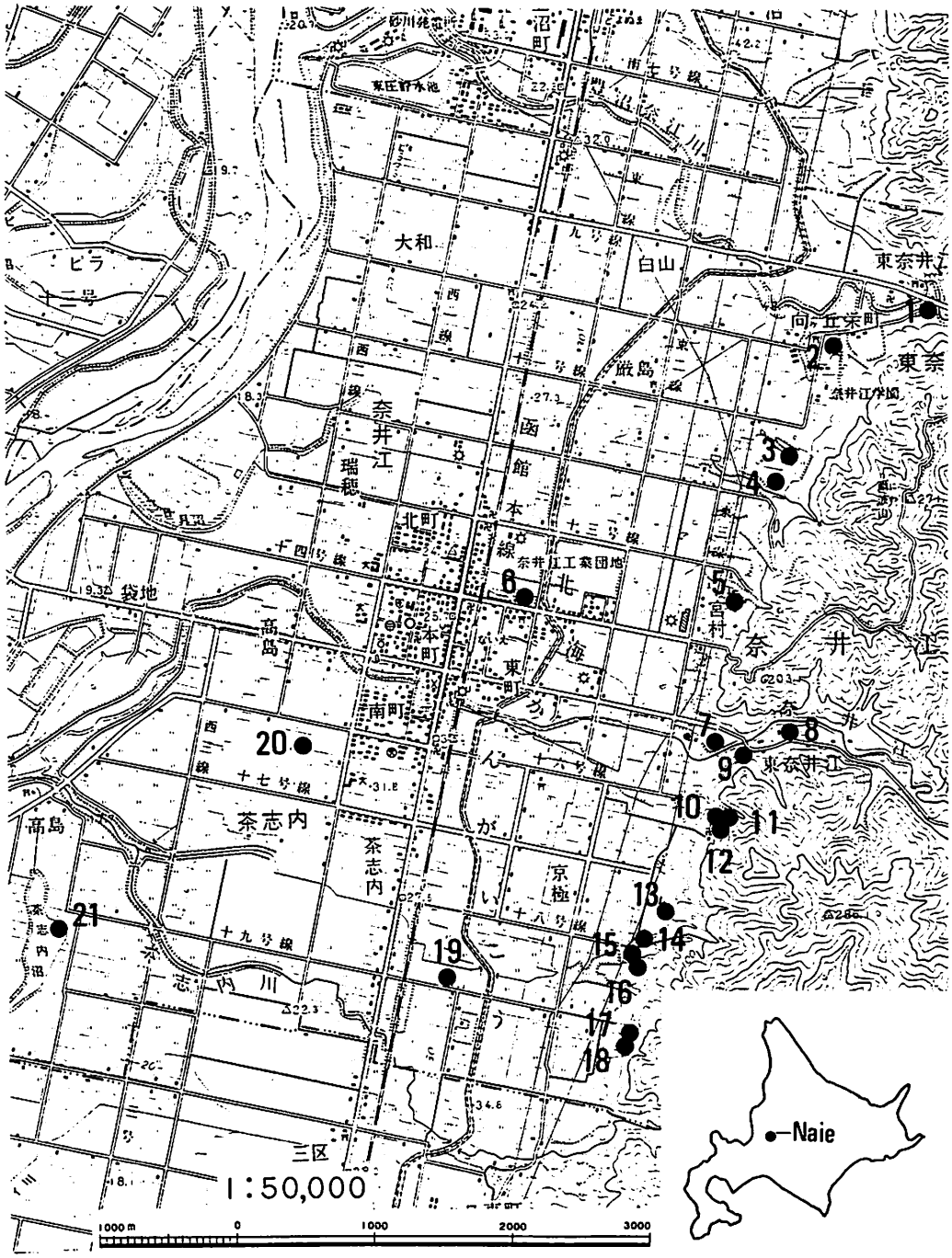


図８　遺跡周辺の地形



1．白山遺跡　2．向ケ丘遺跡　3．厳島1遺跡　4．厳島2遺跡
5．奈井江遺跡　6．宮村1遺跡　7．宮村2遺跡　8．東奈井江3遺跡
9．東奈井江1遺跡　10．茶志内4遺跡　11．茶志内1遺跡　12．茶志内3遺跡
13．茶志内4遺跡　14．茶志内5遺跡　15．茶志内6遺跡　16．茶志内7遺跡
17．茶志内8遺跡　18．茶志内9遺跡　19．茶志内10遺跡　20．茶志内11遺跡
21．茶志内沼遺跡

図9　周辺の遺跡

出土しなかった。

K－60には径約２ｍの土壙があり土器片・石皿のほか馬あるいは牛と思われる獣骨・焼礫・十円銅貨などが出土した。死んだ家畜を埋めた穴であろう。昭和20年代以降に掘られたものと考えられる。

遺物は計1,228点出土した。土器片は北筒式ないし余市式に属するものである。石器はわずかではあるが各器種がそろっている。この中には石皿（２点），すり石（３点）が含まれている。これらの石器の性格を考えると，この近くに住居遺構が存在する可能性もある。

現在，奈井江町では21ヵ所の遺跡が知られているが，遺物の絶対量が少なく，なかでも土器がほとんど発見されていないために，時期や性格が不明なまま今日にいたっている。（石川　朗）

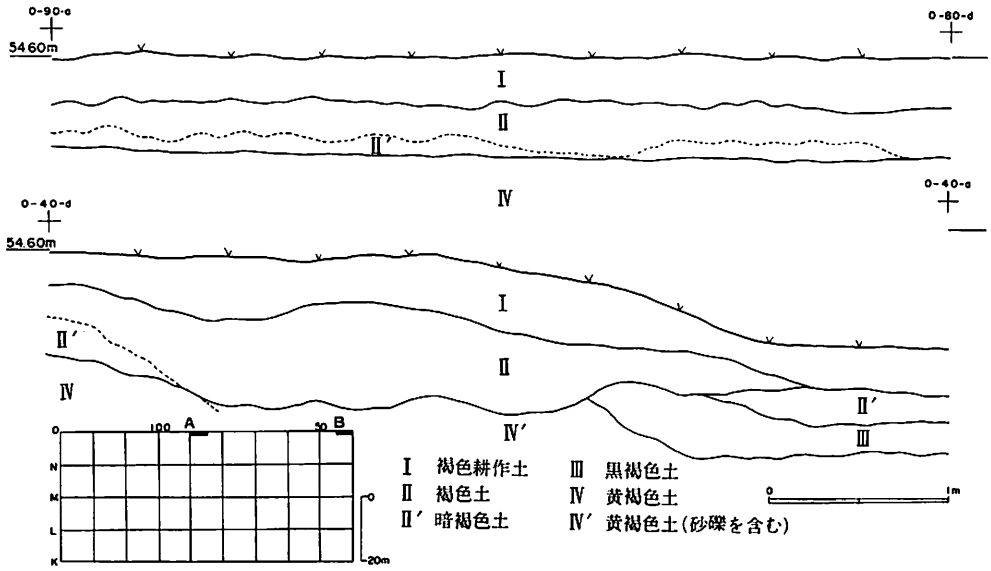


図10　土層断面（上A，下B）

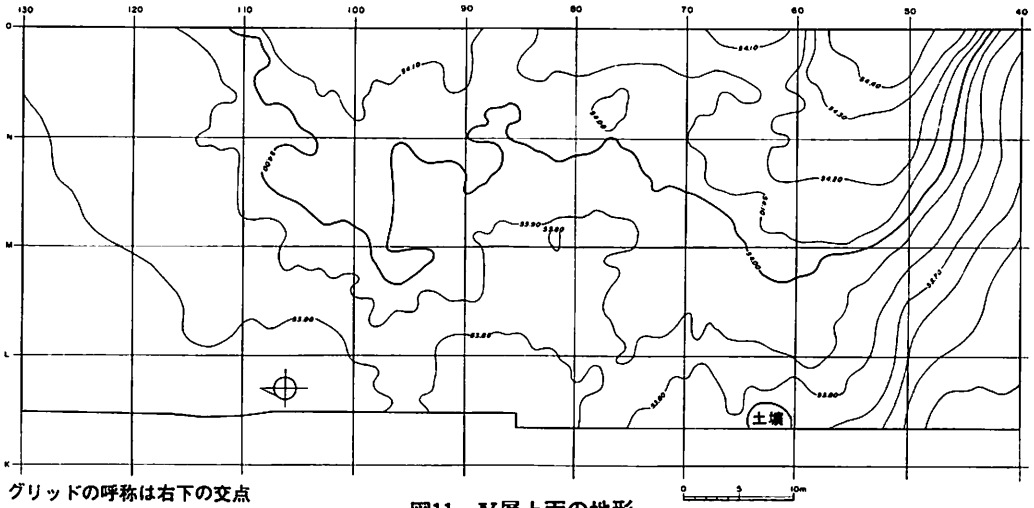


図11　Ⅳ層上面の地形

2 遺　物

土器（図12）

北筒式，余市式土器の破片が出土している。1は円形刺突文が施された口縁部破片である。3はK－60の土壙より出土した同一個体破片。図示したもの以外に10数点の破片がある。口唇部は平坦に整えられている。胎土には多量の小礫が含まれている。4はM－60出土。開端自条結節による綾くり文が施されている。

5はL－50出土。LR縄文が施された胴部破片である。裏面には指頭痕がみとめられる。6はM－60出土。風倒木痕の黒褐色土から出土した胴部破片である。2本の異なる原体による羽状縄文を地文として，一周する貼付文と，これから局所的に垂下する貼付文が施されている。胎土には細砂粒が含まれている。

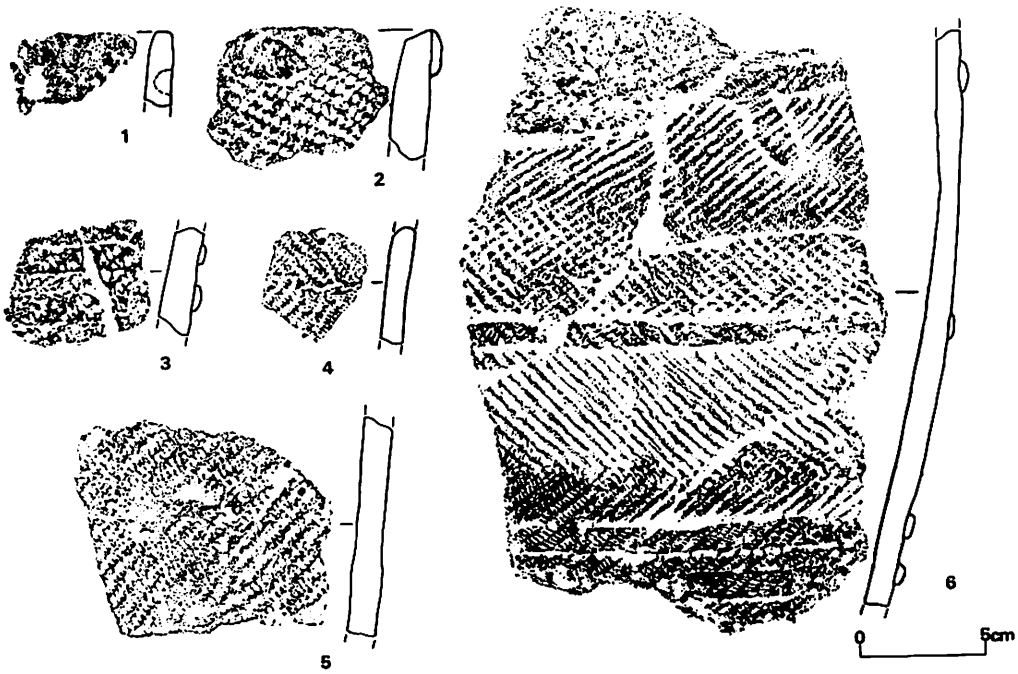


図12　土器

石器（図13）

石鏃［1～4］：4点出土。1は側縁部がやや丸味をもった三角形鏃で，基部は平坦である。調整は素材を大きく変えることなく，周縁部に限られている。有茎鏃は幅広で，かえしの明瞭なもの（2）と不明瞭なもの（3）が出土している。4は未製品と思われる。

石槍類［5・8］：2点出土。いずれも両面加工の茎部破片である。5は一方の縁辺に浅いえぐりが作られている。

石錐類［7］：1点出土。刃潰れ状の磨滅は，ほとんどみとめられないので刺突具の機能をもつと思われる。

つまみ付ナイフ［8］：1点出土。柄部破片である。

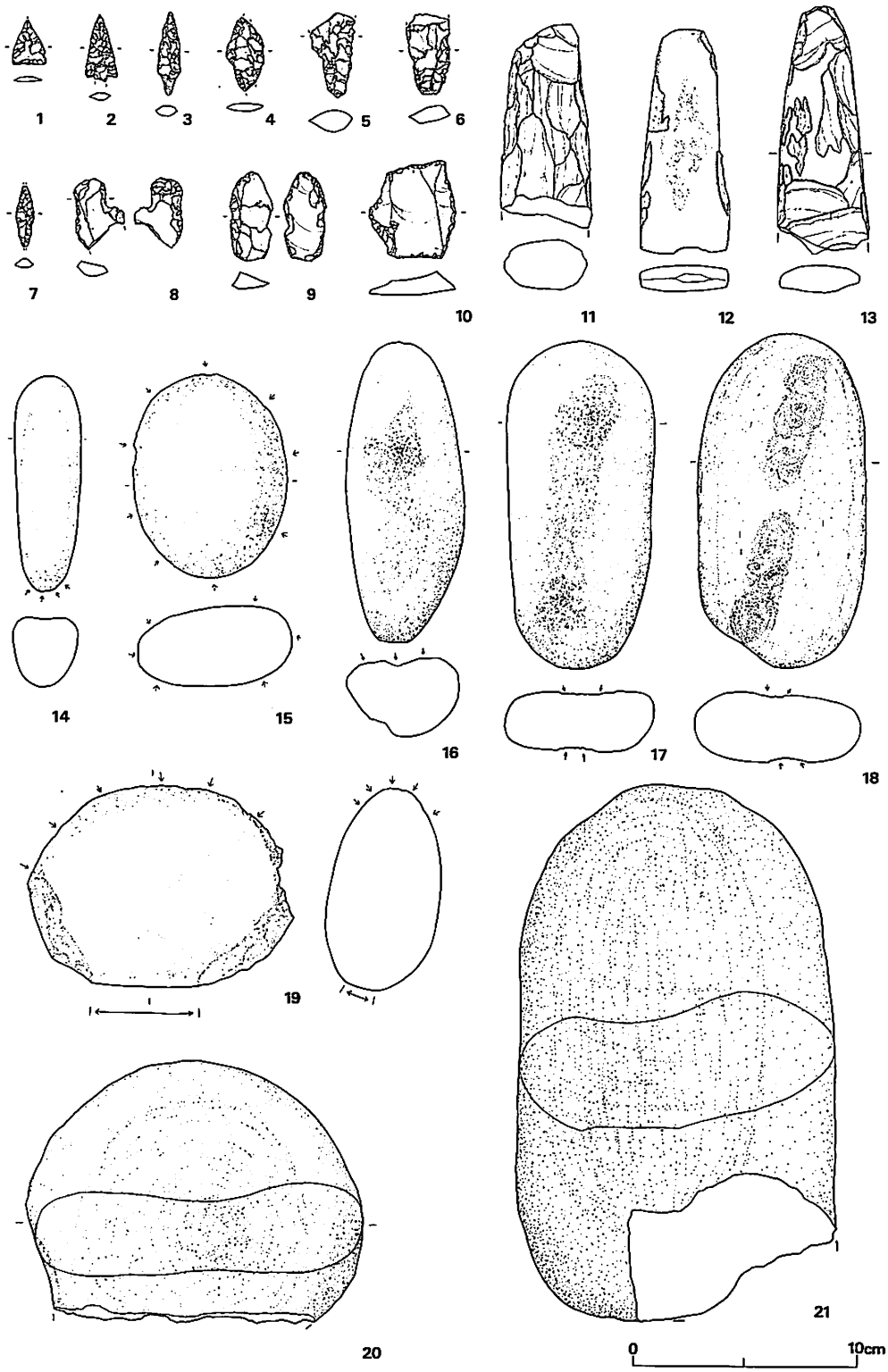


図13　石器

スクレイパー類［9・10］：13点出土。9は側縁中央にくびれ部がある。10は第一次剝離で得られた縁辺を，そのまま刃部にしたものの可能性がある。

石斧［11～13］：4点出土。いずれも側縁部に敲打調整がみとめられ，12・13はその後で全面研磨されている。

たたき石［14～18］：5点出土。棒状礫を素材とし，先端に使用痕があるもの（14）・扁平な円礫を素材とし縁辺に使用痕があるもの（15）・扁平あるいは断面形がカマボコ状の楕円礫を素材とし，平坦面に使用痕があるもの（16～18）がある。

すり石［19］：3点出土。いずれも拳大の扁平な円礫を素材とし，縁辺の一部に使用痕があるものである。他の縁辺には敲打痕がみとめられる。

石皿［20・21］：2点出土。21はK－60の土壙から出土したものである。裏側にも磨面がある。（石川　朗）

表3　掲載石器一覧

番号	名　称	発掘区	大きさ（cm）	重ち(g)	石質	番号	名　称	発掘区	大きさ（cm）	重さ(g)	石質
1	石鏃	M－50	(1.9)×1.4×0.2	(0.6)	黒曜石	12	磨製石斧	M－60	10.0× 4.1×1.2	98	片岩
2	〃	〃	(3.0)×1.4×0.4	(1.2)	〃	13	〃	表採	(11.0)× 4.1×1.4	(80)	〃
3	〃	L－50	3.7 ×1.0×0.5	1.4	〃	14	たたき石	L－60	9.5× 3.0×3.5	130	砂岩
4	〃	M－50	(3.3)×1.7×0.4	(2.0)	〃	15	〃	M－50	9.1× 7.0×3.6	310	〃
5	石槍またはナイフ	J－50	(3.7)×2.0×1.0	(5.7)	〃	16	〃	K－60	13.5× 5.4×3.6	315	〃
6	〃	L－80	(3.6)×2.0×0.8	(6.6)	〃	17	〃	M－70	14.6× 6.6×3.5	475	〃
7	石鏃	M－50	(2.7)×0.7×0.4	(0.6)	〃	18	〃	表採	15.0× 7.5×3.1	505	〃
8	つまみ付ナイフ	K－50	(3.1)×2.3×0.7	(3.6)	〃	19	すり石	N－90	9.0×12.0×5.0	710	〃
9	スクレイパー	L－80	4.0 ×1.9×0.8	5.2	〃	20	石皿	M－50	15.0×(11.7)×4.5	(1050)	〃
10	〃	M－60	4.4 ×3.9×2.2	15.8	〃	21	〃	K－60	(24.1)×14.2×5.5	(2980)	〃
11	打製石斧	L－70	(9.0)×4.1×2.2	(140)	片岩						

参考文献

『奈井江町史』　奈井江町役場　昭和50年

Ⅳ　茶志内４遺跡

１　遺跡の立地と調査の内容

茶志内４遺跡が所在する奈井江町茶志内地区は，明治27年に入植した沼貝（ぬまがい）村屯田兵工兵隊を中心に開拓された所で，昭和21年に美唄町（当時）から奈井江町に編入された。「茶志内」はチャシ地名に由来する地名と考えられ，松浦武四郎の東西蝦夷山川地理取調日誌にも関連する記載がみとめられる。しかし奈井江川，茶志内川流域では，チャシは発見されていない。

遺跡は，夕張山系に連なる緩やかな丘陵の裾部に位置している。標高は約73～76ｍである。調査区の土層は，Ⅰ層が褐色耕作土，Ⅱ層が暗褐色土，Ⅲ層が黒褐色土，Ⅳ層が黄褐色土である。このうち，フレイク・チップを主とする遺物が最も多く出土したのは，風倒木痕内にわずかに残されたⅢ層である。これは，耕作による遺跡の攪乱が進んだものと理解されよう。

遺物は計1,577点出土した。このうち土器は余市式に相当する小片が４点出土したにすぎない。石器は石鏃・石槍・スクレイパー・たたき石・石斧がある。このほかに，石刃技法に類似した手法をもつ石核・剥片が27点ある。なお遺構は検出されなかった。

周辺には茶志内７・８・９・10の遺跡がある。また本遺跡に隣接する苗畑からもフレイク・チップ，石斧片が散布しており遺跡より150ｍほど東の丘陵裾部では，ややまとまって遺物が採集された。（石川　朗）

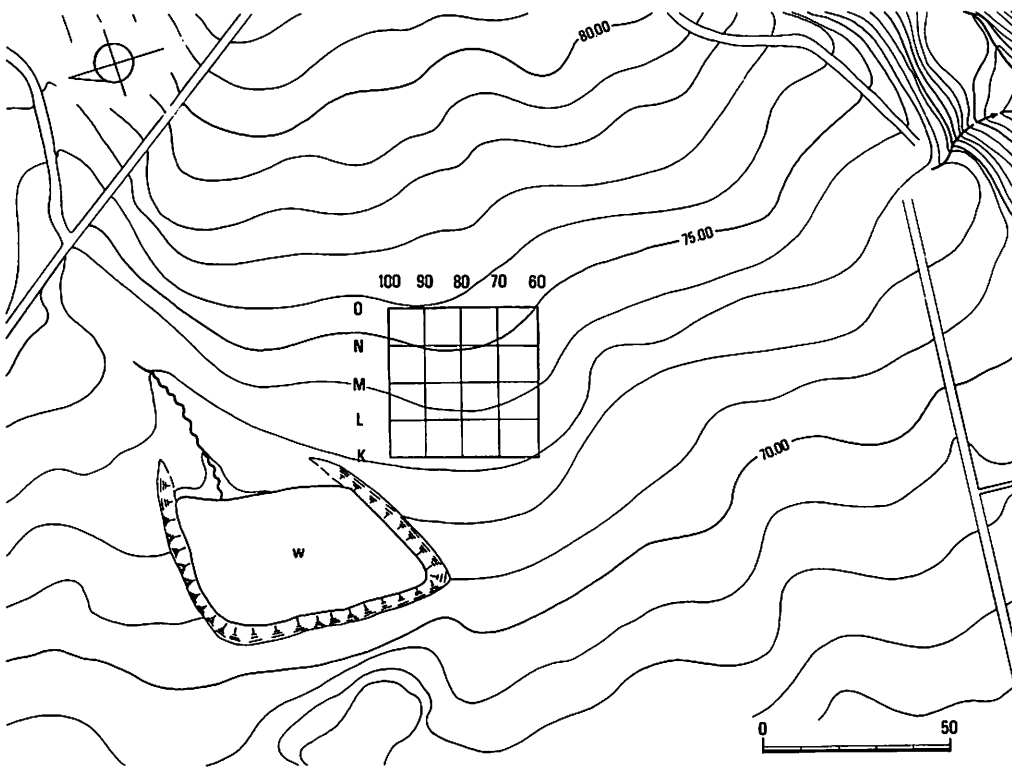


図14　遺跡周辺の地形

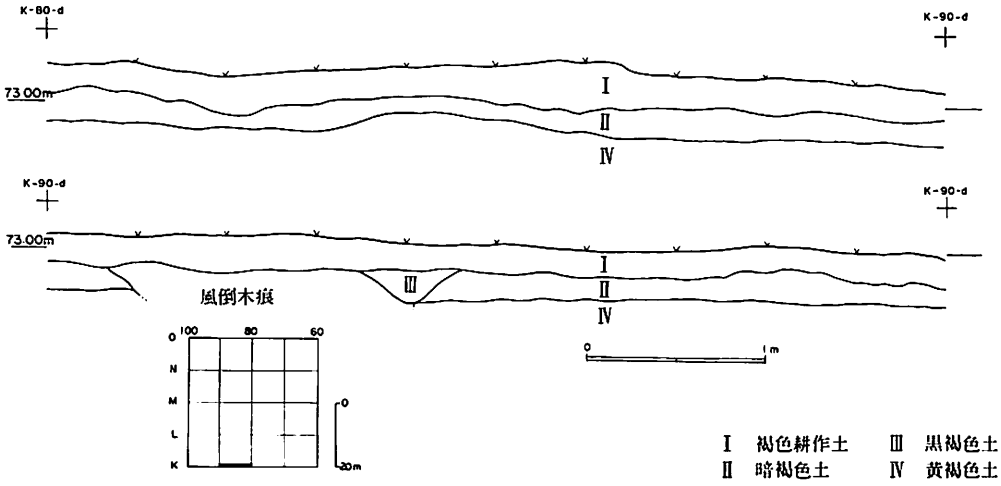


図15 土層断面

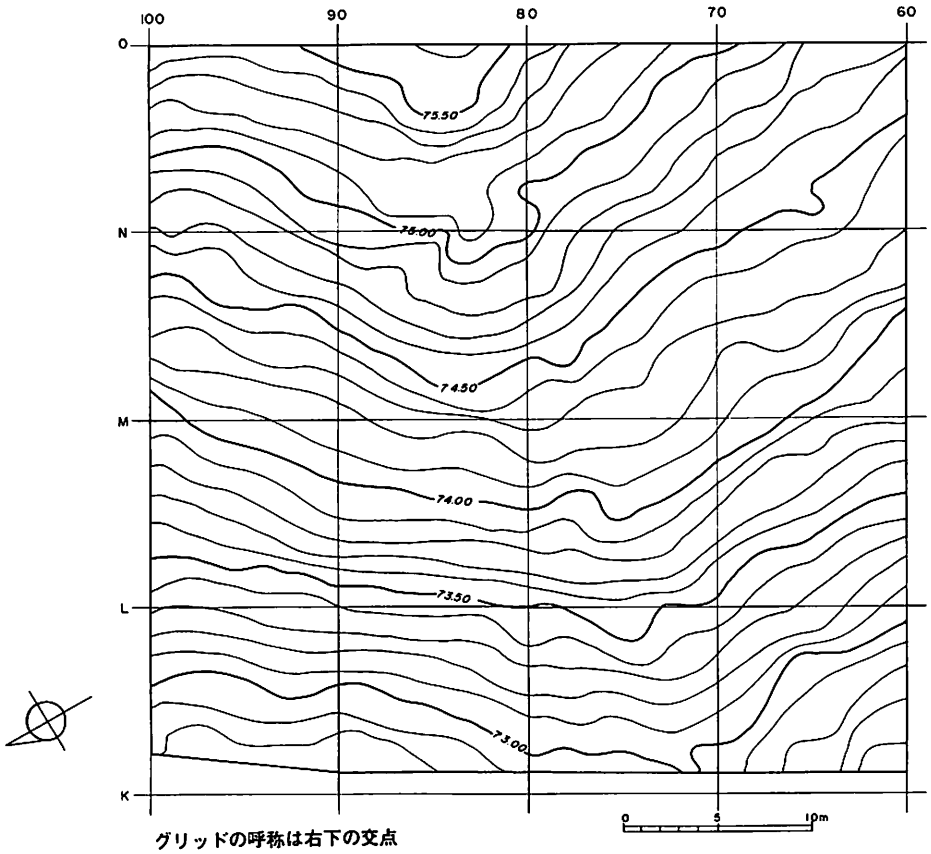


図16 IV層上面の地形

2 遺　物

土器（図17）

1～3はN－70出土。余市式土器の同一個体片である。口縁部に幅広の肥厚帯をもち，その直下に円形刺突文を配している。胎土には小礫が含まれている。4はM－80出土。胎土には石英・雲母粒が含まれている。わずかに斜行縄文がみとめられる。

図17　土器

石器（図18）

石鏃・石槍：［1～3］：3点出土。1は五角形をなすもの。縄文早期のものの可能性がある。2はやや粗い剝離によって作られた木葉形の石槍。3は柄部破片である。表面はガラス質の光沢を失なっており，破損部後に熱を受けたものと考えられる。

スクレーパー類［4～9］：13点出土。いずれも剝片の縁辺に簡単な二次調整を加えたものである。4は主剝離面と急角度で交わる縁辺に湾入した刃部をもつ。7は縦長剝片の先端に調整痕が集中しており，尖頭状の刃部をもつ。9は錯向剝離的な調整が施されている。

石斧［10］：3点出土。背面の一部に黒色の物質が付着している。

たたき石［11］：1点出土。楕円礫の長軸両端に使用痕がある。

石核［12～17］：8点出土。いずれも一部に自然面を残し，縦長の小剝片を連続的に作り出したものである。打面は自然面のもの（12），数回の加撃によって作出したもの（13～17）があるが，打面調整はほとんど行なわれていない。ただし，15の打面の一部には擦痕がみとめられた。13・15・17は90°打面転位を行ない，さらに1～2枚の剝片を作り出している。

剝片［18～23］：縦長の小剝片は64点出土した。これらは自然面を残したもの，形が「し」の字状によじれているもの，幅が一定でないものなどがあり，直接石核と接合したものはないが分布状態，石質，大きさ，剝離の形状等から推定すると，前記の石核から得られたものの可能性がある。24・25は二次調整がみとめられるものである。18～20は「石核稜つき剝片」と呼称されるものに類似しているが石核との関係は不明である。20・21の側縁部には微細な剝離がみとめられ，この剝片は使用された可能性がある。22・23は，グレイバースポールに類似している。（石川　朗）

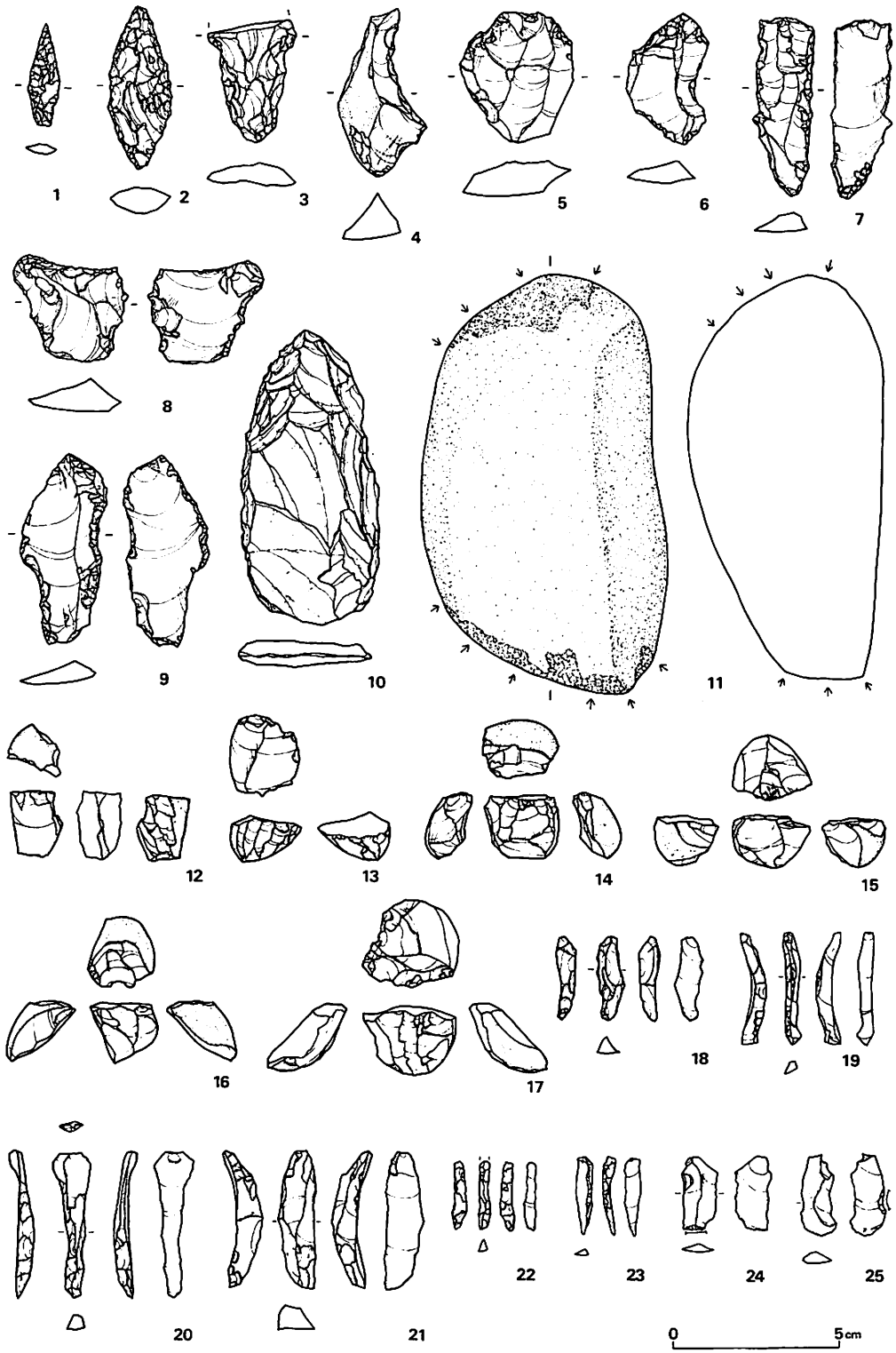


図18　石器

表4　掲載石器一覧

番号	名　称	発掘区	大きさ (cm)	重さ(g)	石質	番号	名　称	発掘区	大きさ (cm)	重さ(g)	石質
1	石鏃	N－60	3.1 × 0.9× 0.3	0.7	黒曜石	14	石核	N－70	2.0 × 2.3 × 1.3	6.8	黒曜石
2	石槍またはナイフ	M－70	4.8 × 1.9× 0.6	5.9	〃	15	〃	〃	1.6 × 2.3 × 1.8	6.5	〃
3	〃	〃	(3.7)× 2.6× 0.7	(6.0)	〃	16	〃	M－70	1.7 × 2.0 × 2.1	5.4	〃
4	スクレイパー	N－70	5.1 × 2.5× 1.4	11.0	〃	17	〃	L－80	2.0 × 2.8 × 2.5	9.2	〃
5	〃	表採	3.9 × 3.5× 1.0	12.5	〃	18	剥片	M－60	2.5 × 0.7 × 0.6	0.7	〃
6	〃	〃	4.0 ×.1 9× 0.8	5.9	〃	19	〃	N－70	3.3 × 0.4 × 0.4	0.7	〃
7	〃	N－80	5.3 × 1.7× 0.6	7.0	〃	20	〃	N－80	4.4 ×.1.1 × 0.4	1.0	〃
8	〃	K－60	2.8 × 3.5× 1.0	7.6	〃	21	〃	M－80	4.1 × 1.1 ×0.7	3.4	〃
9	〃	N－70	5.7 × 2.5× 0.7	9.0	〃	22	〃	M－70	2.1 × 0.3 × 0.4	0.5	〃
10	打製石斧	M－90	8.8 × 4.1× 0.8	34.0	粘板岩	23	〃	M－80	2.4 × 0.5 × 0.3	0.3	〃
11	たたき石	N－80	12.2 × 7.4× 5.8	775.0	砂岩	24	〃	M－80	2.2 × 1.0 × 0.4	0.4	〃
12	石核	N－70	2.0 × 1.7× 1.2	4.5	黒曜石	25	〃	〃	2.5 × 1.0 × 0.4	0.8	〃
13	〃	M－70	1.4 × 2.1× 2.4	5.7	〃						

参考文献

『奈井江町史』　奈井江町役場　昭和50年

「再篙石狩日誌」巻の二『丁巳東西蝦夷山川地理取調日誌』　北海道出版企画センター復刻　昭和57年

3　周辺遺跡の出土遺物

1～9は，茶志内4遺跡より約150m東側の畑で表面採集したものである。石核や縦長の小剝片は形態からみると茶志内4遺跡のものに類似している。10は茶志内9遺跡，11～13は茶志内5遺跡で，それぞれ昭和60年夏　北海道教育委員会の立会調査によって出土した石斧である。（石川　朗）

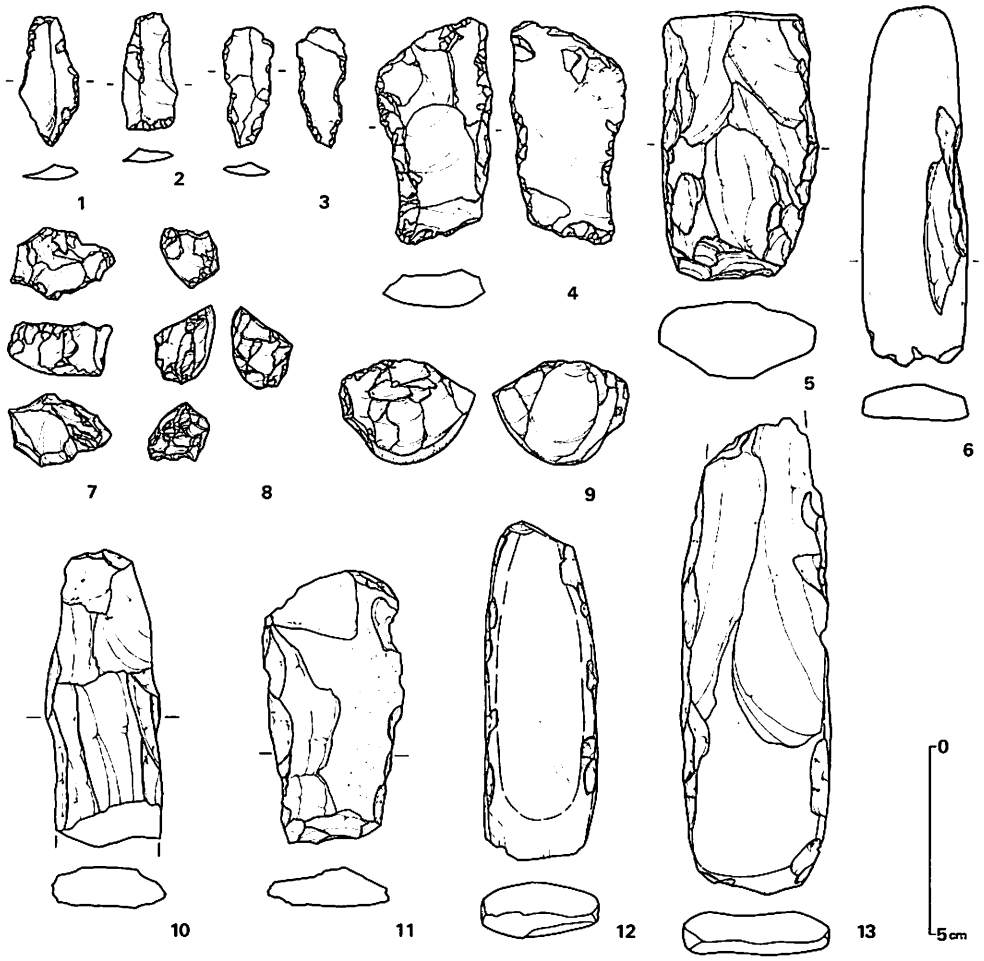


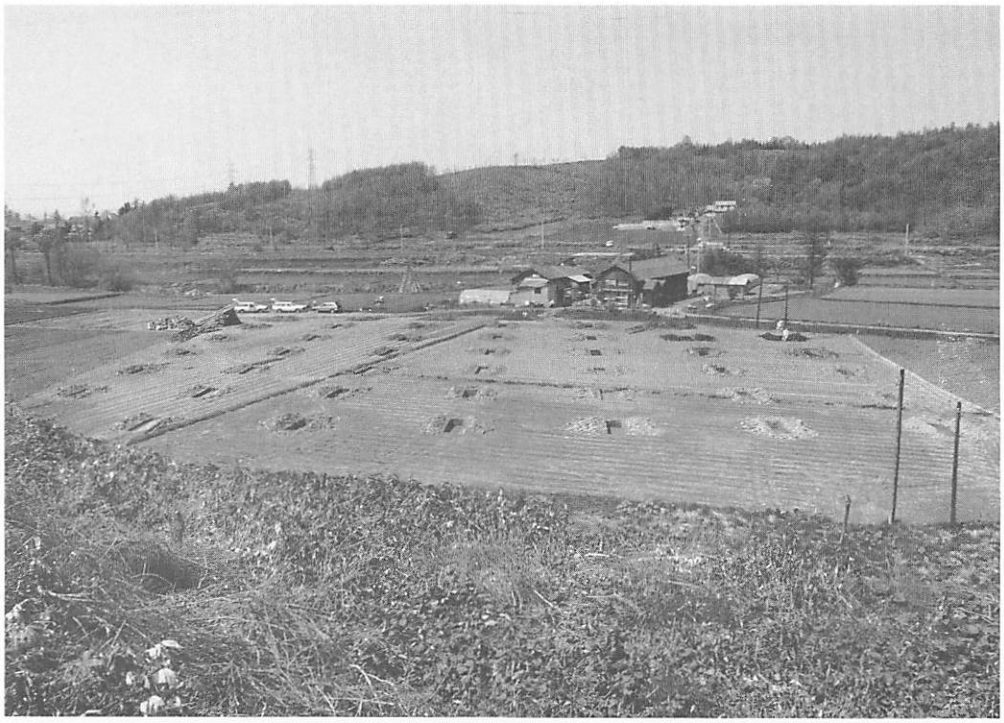
図19　周辺遺跡の遺物

表5　掲載石器一覧

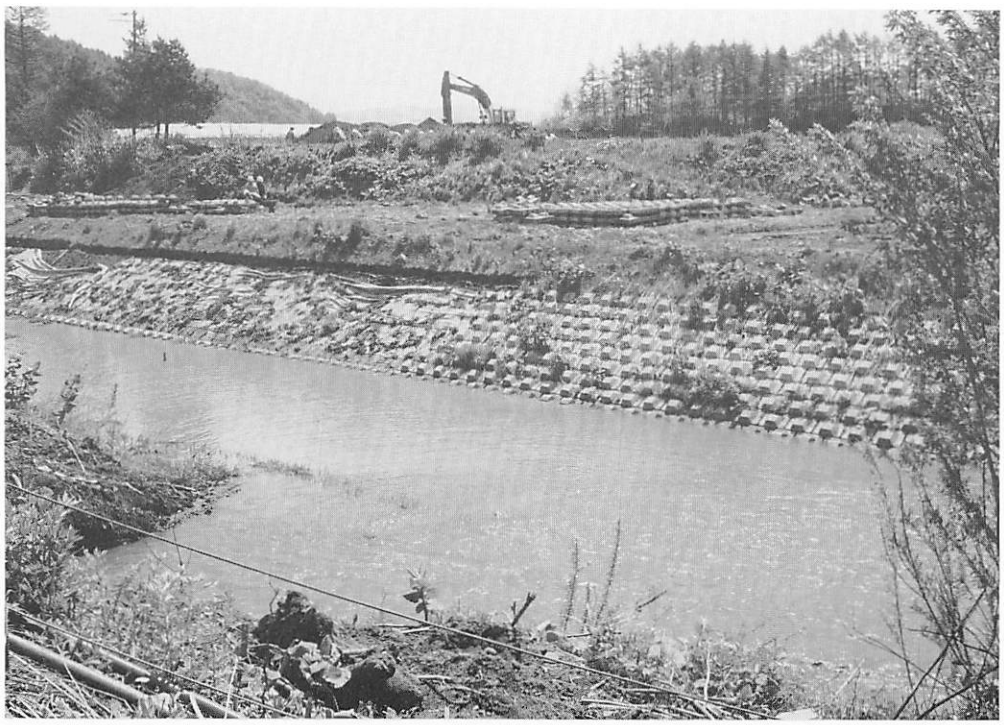
番号	名　称	採集地	大きさ（cm）	重さ（g）	石質	番号	名　称	採集地	大きさ（cm）	重さ（g）	石質
1	スクレイパー	茶志内4遺跡より東方150m	3.4 ×1.6×0.4	1.8	黒曜石	8	石核	茶志内4遺跡より東方150m	1.8 ×1.5×1.4	4.0	黒曜石
2	〃	〃	3.1 ×1.5×0.4	1.4	〃	9	〃	〃	3.5 ×2.8×1.5	17.1	〃
3	〃	〃	3.2 ×1.2×0.4	1.8	〃	10	打製石斧	茶志内9遺跡	(8.0) ×3.0×1.2	(38.5)	片岩
4	〃	〃	5.6 ×3.0×1.2	23.4	頁岩	11	〃	茶志内5遺跡	7.2 ×3.6×1.2	39.7	粘板岩
5	打製石斧	〃	(7.2) ×4.2×2.4	(103.4)	片岩	12	磨製石斧	〃	9.1 ×3.0×1.6	67.8	片岩
6	磨製石斧	〃	9.6 ×2.8×1.0	50.9	〃	13	〃	〃	(12.7) ×4.0×1.3	(104.7)	〃
7	石核	〃	1.5 ×2.8×1.9	7.0	黒曜石						

写　真　図　版

焼山２遺跡　図版１～６
宮村２遺跡　図版７～９
茶志内４遺跡　図版９～12



1．焼山 2 遺跡遺景（南から）



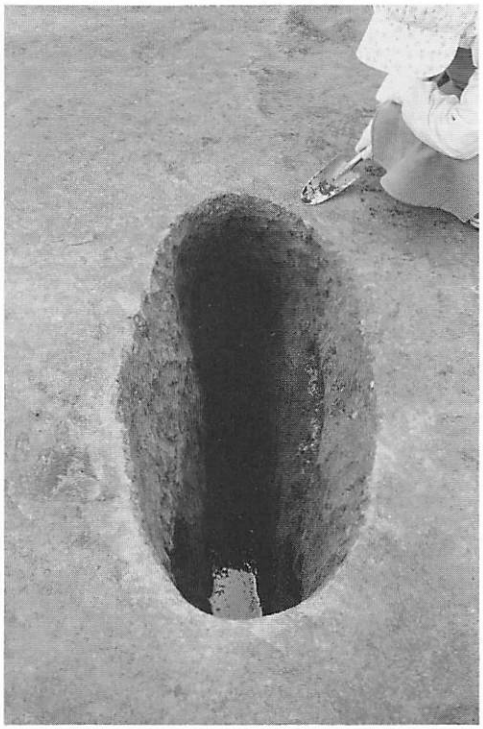
2．焼山 2 遺跡遺景（北から）

図版 2
焼山 2 遺跡

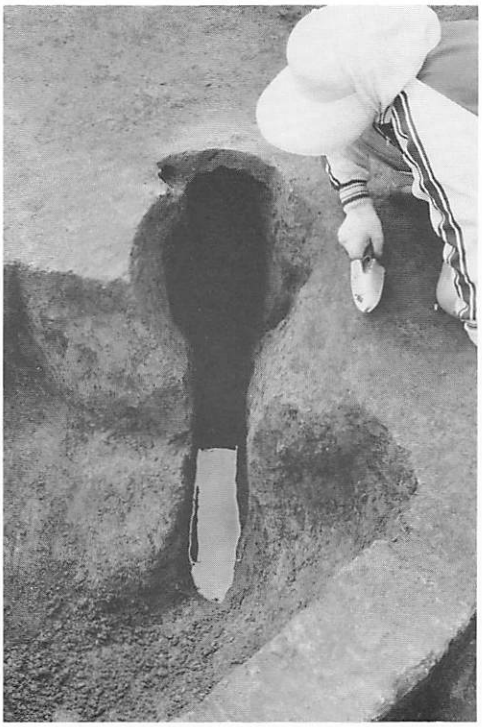
1．完掘の状況

2．完掘の状況（調査区東側）

1．ＴＰ－１確認状況



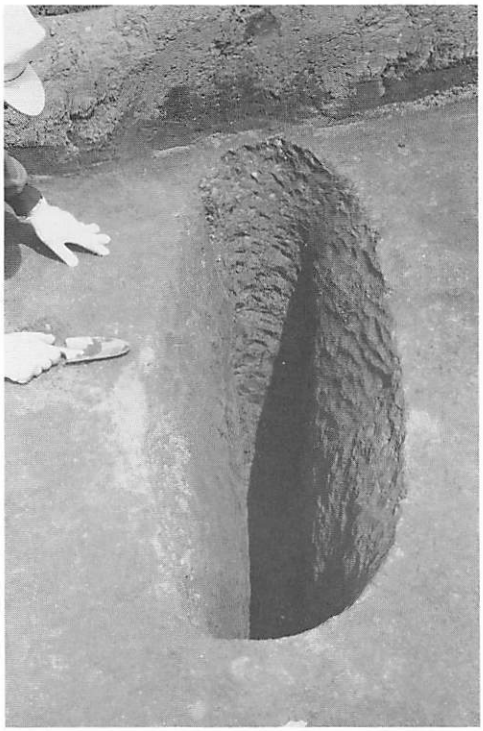
2．ＴＰ－１完掘状況



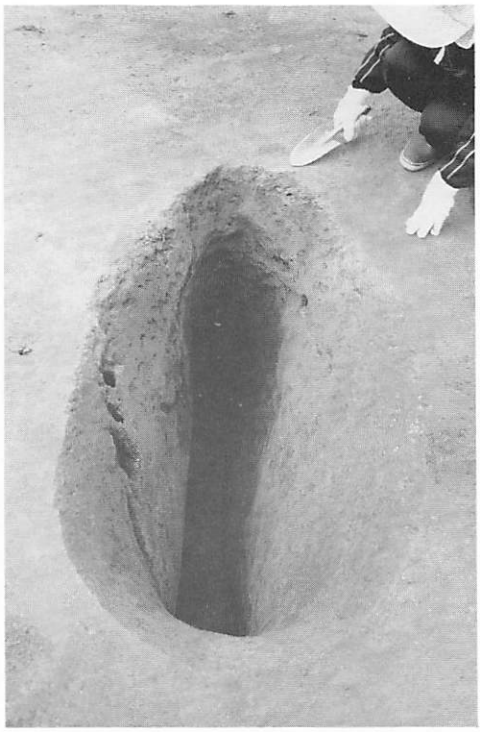
3．ＴＰ－２完掘状況

4．ＴＰ－３発掘状況

図版 4
焼山 2 遺跡



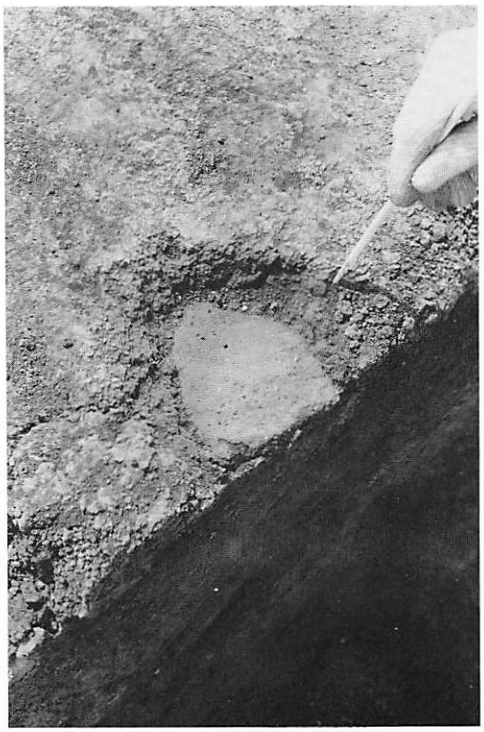
1．ＴＰ－３完掘状況



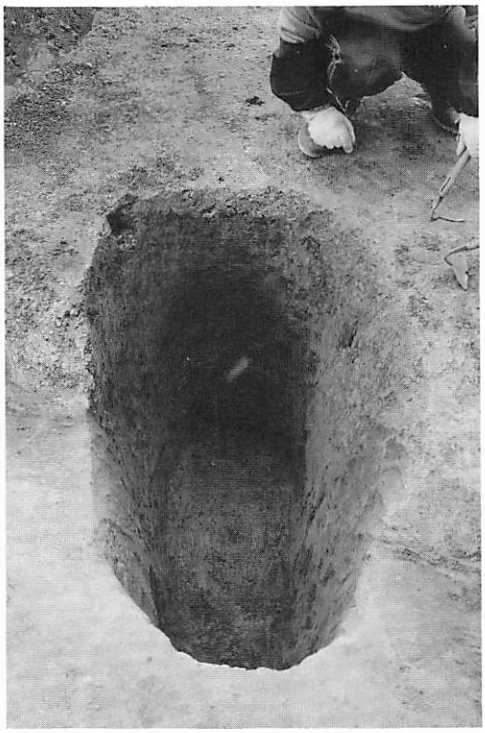
2．ＴＰ－４完掘状況

3．ＴＰ－５杭跡断面（西側）

4．ＴＰ－５杭跡断面（東側）



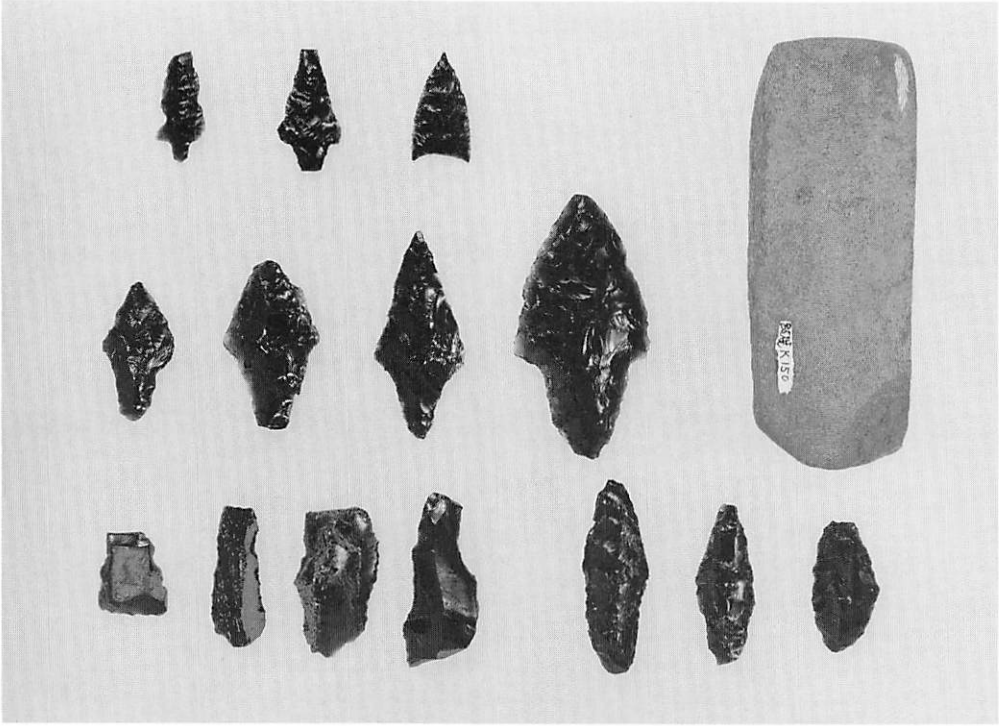
1．ＴＰ－５土器出土状態



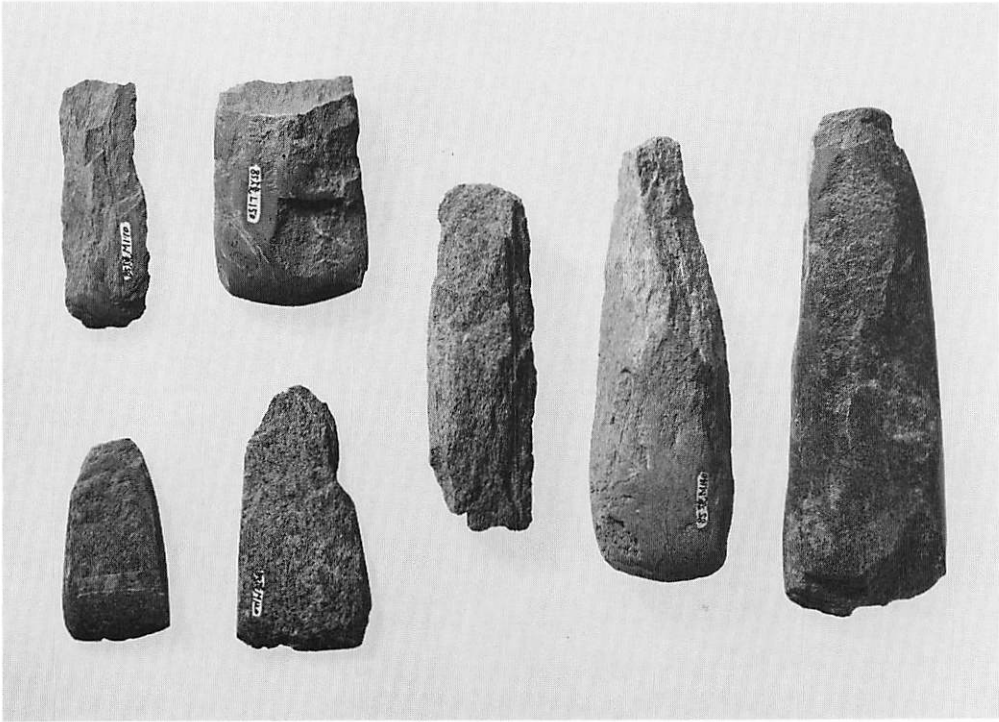
2．ＴＰ－５完掘状況

3．土器

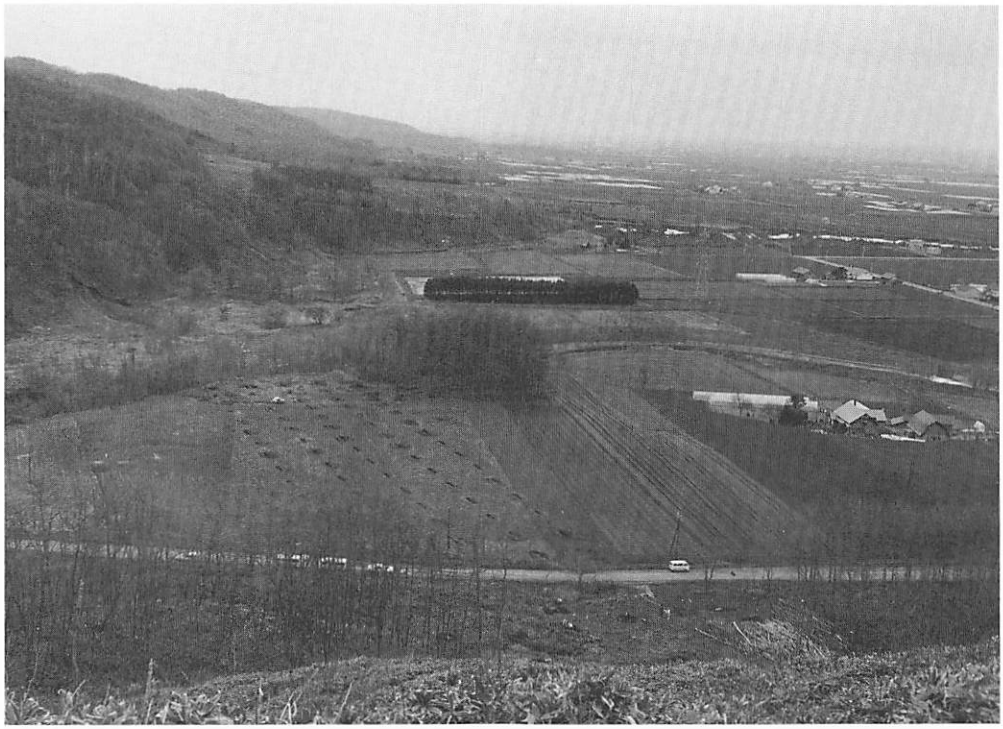
図版 6
焼山 2 遺跡



1．石器



2．石器



1．宮村 2 遺跡遠景（北から）

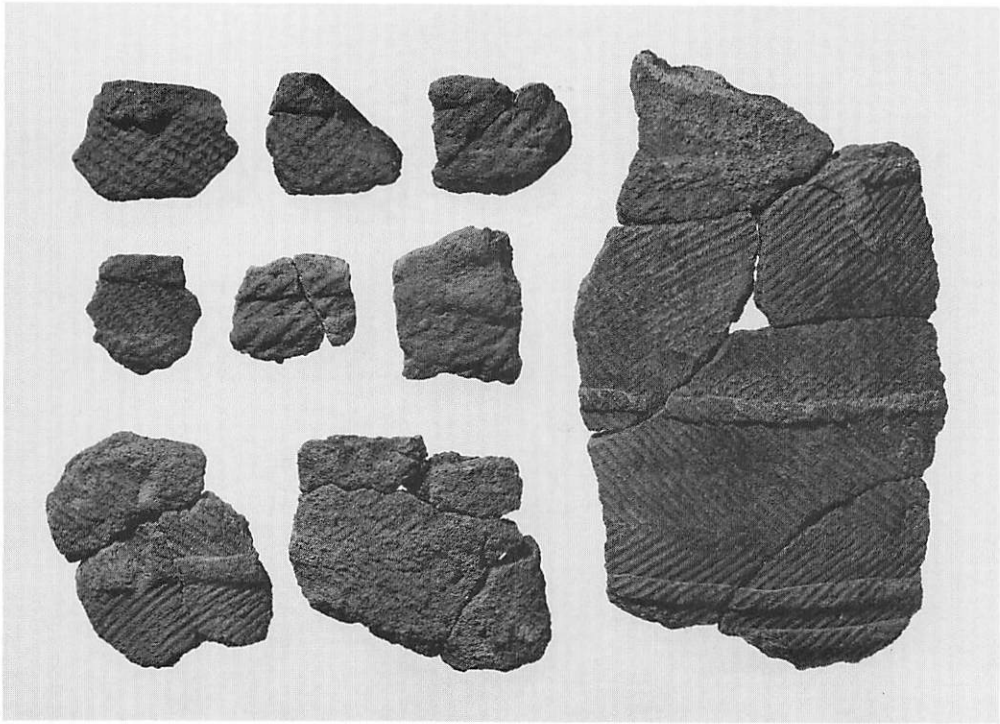
2．完掘の状況

図版 8
宮村 2 遺跡

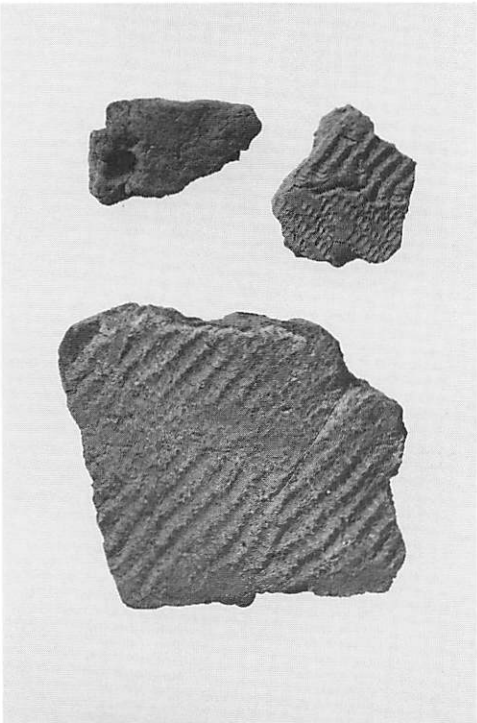
1．発掘風景

2．土壙の発掘

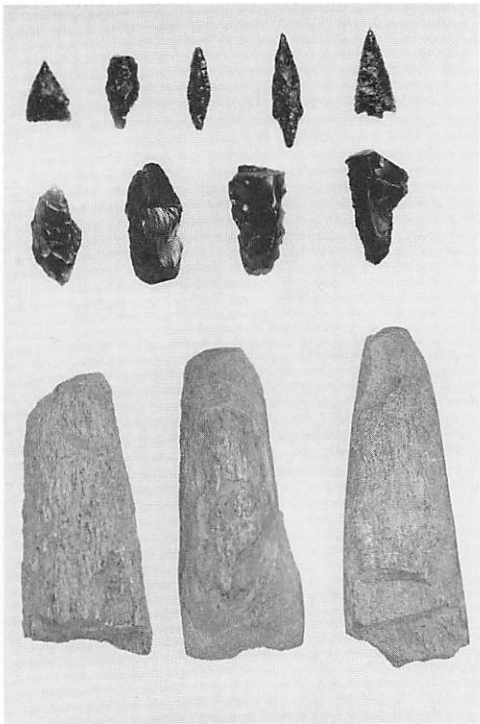
3．土壙の土層断面



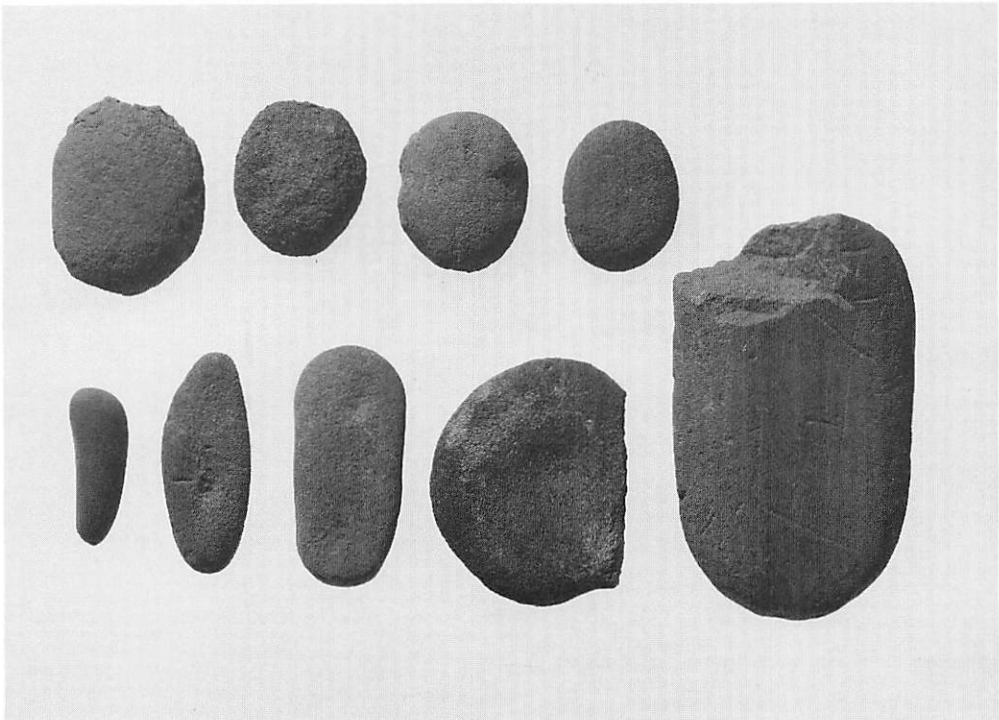
4．土器



1．土器

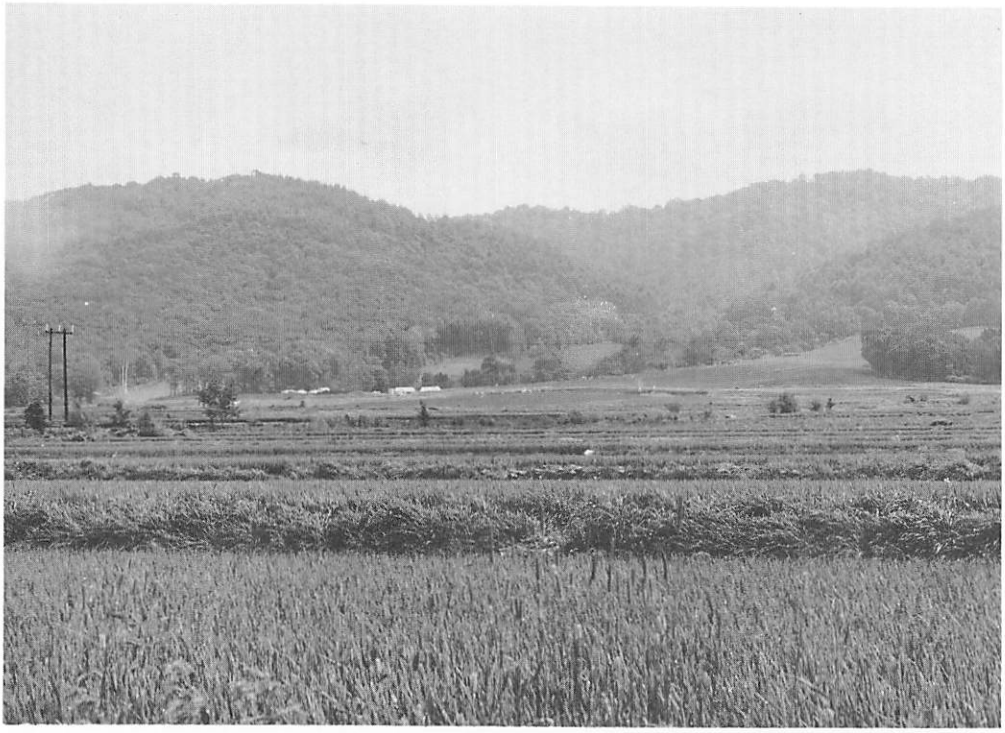


2．土器



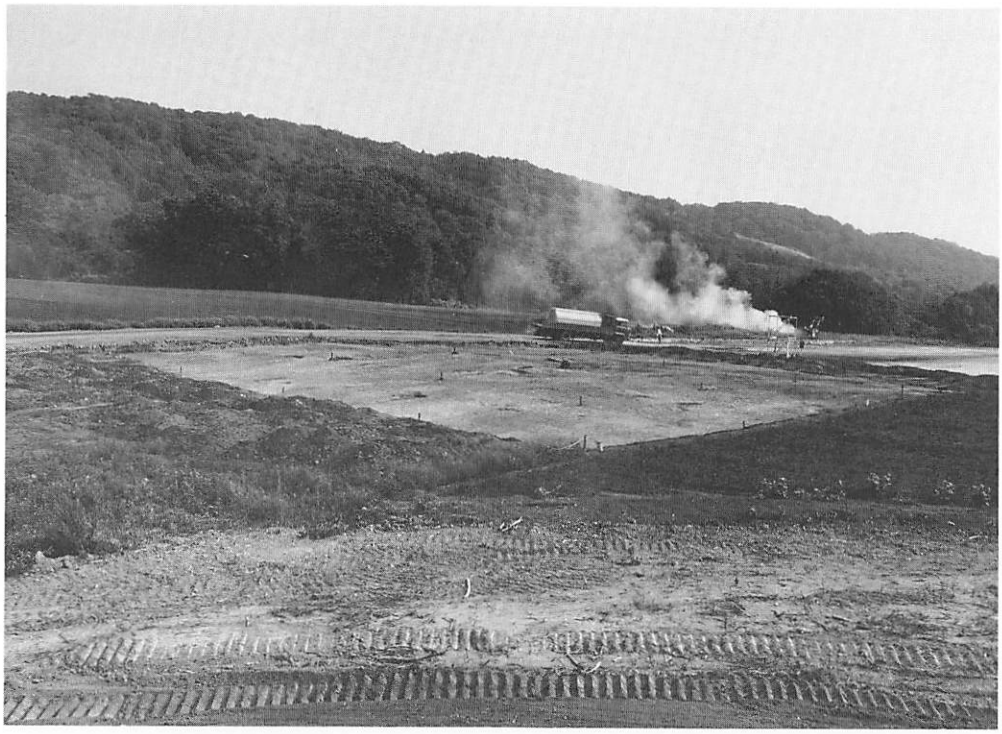
3．石器

図版10
茶志内４遺跡

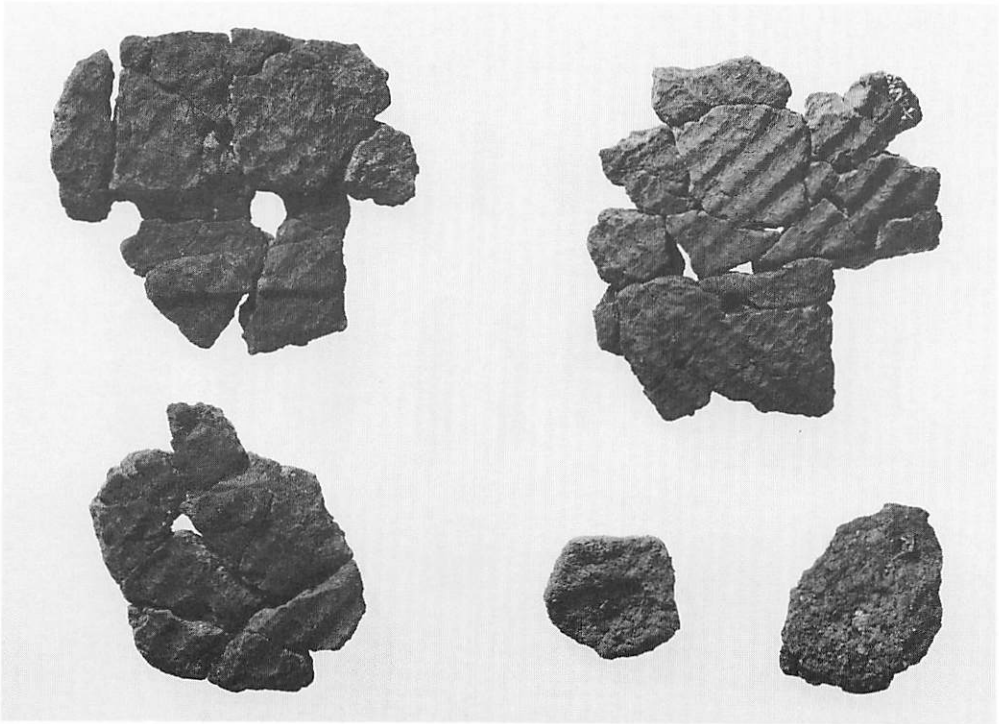


１．茶志内４遺跡遠景（西から）

２．発掘作業

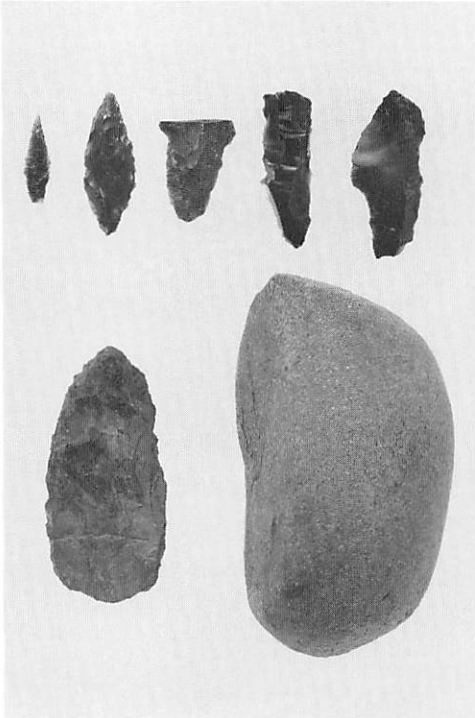


1．完掘の状況

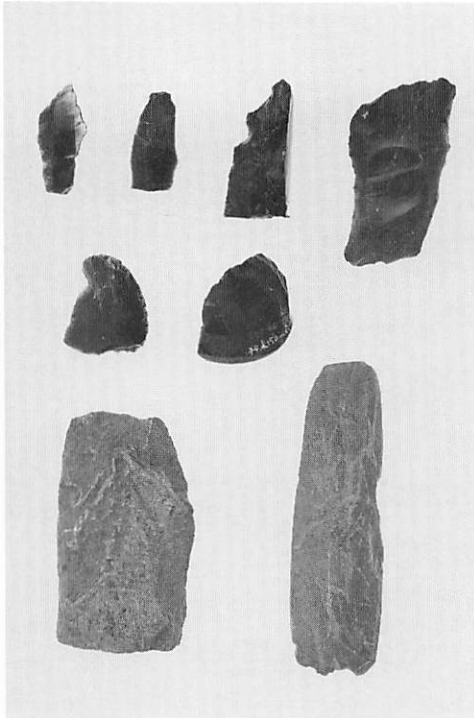


2．土器

図版12
茶志内4遺跡他



1．石器



2．周辺遺跡の遺物

3．石器

財団法人 北海道埋蔵文化財センター
平成15年10月22日
40525

財団法人　北海道埋蔵文化財調査センター報告書第29集

砂川市　焼山2遺跡

奈井江町　宮村2遺跡・茶志内4遺跡

－北海道縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書－

昭和61年3月31日　発行

編集・発行　財団法人　北海道埋蔵文化財センター

064　札幌市中央区南26条西11丁目

印　　刷　富士プリント株式会社

064　札幌市中央区南16条西9丁目

10017302
北海道理蔵文化財センター